

学校コード F113310103634

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 専門職大学の設置
注1

認可

注2

情報経営イノベーション専門職大学

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人電子学園
令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	イノベーションマネジメント局
職名・氏名	エグゼクティブ 岡田 倫太郎
電話番号 (夜間)	03-5655-1555
e-mail	kyoumu@i-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

情報経営イノベーション学部

＜情報経営イノベーション学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	21
6. 附帯事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	39

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人電子学園

(2) 大学名

情報経営イノベーション専門職大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒131-0044

東京都墨田区文花1-18-13

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オオノ タダタカ) 多 忠貴 (平成28年1月)		
学 長	(ナカムラ イチヤ) 中村 伊知哉 (令和2年4月)		
学 部 長	(カマタニ オサム) 鎌谷 修 (令和2年4月)		
学科長等	該当なし		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科 情報経営イノベーション学士(専門職)	経済学関係	4年	200人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	800人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A	入学定員	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	200人 200 [30]	一人 (-) [-]	200人 200 [30]	一人 (-) [-]	200人 200 [30]	一人 (-) [-]	200人 200 [30]	一人 (-) [-]	200人 200 [30]	1.06倍	一倍	0.93倍	一倍	
	志願者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	460 44 [37]	(-) [-]	386 16 [16]	(-) [-]	309 10 [10]	(-) [-]	253 3 [3]	(-) [-]	(-) [-]					
	受験者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	397 41 [41]	(-) [-]	352 15 [15]	(-) [-]	289 10 [10]	(-) [-]	241 3 [3]	(-) [-]	(-) [-]					
	合格者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	270 19 [19]	(-) [-]	278 10 [10]	(-) [-]	255 6 [6]	(-) [-]	229 3 [3]	(-) [-]	(-) [-]					
B	入学者数	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	230 16 [16]	(-) [-]	229 7 [7]	(-) [-]	217 5 [5]	(-) [-]	178 3 [3]	(-) [-]	(-) [-]					
	入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	1.15	-	1.14	-	1.08	-	0.89	-	-					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	230	-	226	-	215	-	178	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[16]	[-]	[7]	[-]	[4]	[-]	[3]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
2年次			-	-	-	-	221	-	209	-	188	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[15]	[-]	[7]	[-]	[3]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
3年次					-	-	-	-	207	-	183	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[13]	[-]	[7]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4年次							-	-	-	-	195	-	
							[-]	[-]	[-]	[-]	[13]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	230	-	447	-	631	-	744	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[16]	[-]	[22]	[-]	[24]	[-]	[26]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて**記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。**
 - また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	—
令和元年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	—
			令和元年度	— 人	— 人	—
令和2年度	230 人	7 人	平成30年度	— 人	— 人	—
			令和元年度	— 人	— 人	—
			令和2年度	7 人	1 人	就学意欲の低下(2人)、進路変更(3人)、 一身上の都合(1人) [進路変更(1人)]
令和3年度	452 人	30 人	平成30年度	— 人	— 人	—
			令和元年度	— 人	— 人	—
			令和2年度	14 人	1 人	就学意欲の低下(2人)、進路変更(6人)、 一身上の都合(2人)、その他(3人) [進路変更(1人)]
			令和3年度	16 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、進路変更(10人)、 一身上の都合(4人)、病気療養(1人)
令和4年度	639 人	73 人	平成30年度	— 人	— 人	—
			令和元年度	— 人	— 人	—
			令和2年度	14 人	1 人	就学意欲の低下(4人)、進路変更(5人)、 病気療養(1人)、経済的理由(1人)、懲戒(1人)、 その他(1人) [除籍(1人)]
			令和3年度	30 人	0 人	就学意欲の低下(2人)、進路変更(19人)、 一身上の都合(1人)、病気療養(2人)、除籍(1人)、 その他(5人)
			令和4年度	29 人	2 人	就学意欲の低下(8人)、進路変更(15人)、 病気療養(3人)、その他(1人) [進路変更(2人)]
令和5年度	744 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	—
			令和元年度	— 人	— 人	—
			令和2年度	0 人	0 人	—
			令和3年度	0 人	0 人	—
			令和4年度	0 人	0 人	—
			令和5年度	0 人	0 人	—
合計		110 人		110 人	5 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{7}{230} = \boxed{3.04} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{30}{452} = \boxed{6.63} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{73}{639} = \boxed{11.42} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{744} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	現代社会基礎	イノベーションの志	1前	2			1						
		スタディスキル	1前	2			1						
		英語コア・スキルズⅠ	1前	2					1				
		数学基礎A	1前		2		1						
		リサーチ入門	1後	2				1					
		英語コア・スキルズⅡ	1後	2					1				
		数学基礎B	1後		2			1					
		数学基礎C	1後		2			1					
		キャリアデザインⅠ	2前	1				1					
		職業倫理	2前		2								兼1
		先端グローバル社会	2前		2								兼1
		英語アカデミックリテラシー	2前		2					1			
		科学史	2後		2								兼1
		ICTと人間	2後		2								兼1
		英米文学演習	2後		2			1					
		キャリアデザインⅡ	3後	1				1					
小計(16科目)		-	12	18	0	5	2	1	0	0		兼4	
職業専門科目	ビジネス基礎	マネジメント(経営学基礎)	1前	2			1						
		マーケティング基礎	1前	2			1						
		法務リテラシーⅠ	1後	2				1					
		アカウントティング入門	1後	2			1						
	ビジネス応用	オペレーションズマネジメント	2前		2		1						
		マーケティング応用	2前		2		1						
		アカウントティング応用	2前		2		1						
		法務リテラシーⅡ	2前		2			1					
		ファイナンス入門	2後		2		1						
		問題形成と問題解決	2後		2		1						
		組織行動論	2後		2								兼1
		ビジネスゲームによる経営意思決定	3前		2								兼1
		人的資源管理論	3前		2								兼1
		地域創生とイノベーション	3後		2		1						
		イノベーション特論	3後		2		1						
		コーポレートファイナンス	3後		2								兼1
	グローバル企業戦略論	3後		2								兼1	
	新興市場における事業開発	4前		2		1							
	クロスセクタールビジネスデザイン	4前		2								兼1	
	デザインと経営	4前		2								兼1	
税務会計・会計処理	4後		2								兼1		
ビジネス実践	イノベーションプロジェクトⅠ	1前	2			2	1	2					
	イノベーションプロジェクトⅡ	1後	2			2	1	2					
	スタートアップ基礎(起業論)	1後	2			1							
	イノベーションプロジェクトⅢ	2前	2			2	1	2					
	ビジネスフィールドリサーチⅠ【※】	2前	2			1	2	2					
	イノベーションプロジェクトⅣ	2後	2			2	1	2					
	ビジネスフィールドリサーチⅡ【※】	2後	2			1	2	2					
	イノベーションプロジェクトⅤ	3通	2			2	1	2					
	インターンシップⅠ【臨】	3前	12			3		2					
	インターンシップⅡ【臨】	3後	12			3		2					
	イノベーションプロジェクトⅥ	4通	2			2	1	2					

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	現代社会基礎	イノベーションの志	1前	2			1						
		スタディスキル	1前	2			1						
		英語コア・スキルズⅠ	1前	2					1				兼2
		数学基礎A	1前		2		1						
		リサーチ入門	1後	2				1	0				
		英語コア・スキルズⅡ	1後	2						1			兼2
		数学基礎B	1後		2			1					
		数学基礎C	1後		2			1					
		キャリアデザインⅠ	2前	1				1					兼2
		職業倫理	2前		2								兼2
		先端グローバル社会	2前		2								兼1
		英語アカデミックリテラシー	2前		2					2			
		科学史	2後		2								兼1
		ICTと人間	2後		2								兼2
		英米文学演習	2後		2			1					
		キャリアデザインⅡ	3後	1				1					兼2
小計(16科目)		-	12	18	0	6	1	2	0	0		兼10	
職業専門科目	ビジネス基礎	マネジメント(経営学基礎)	1前	2			1						
		マーケティング基礎	1前	2			1						兼1
		法務リテラシーⅠ	1後	2				1					
		アカウントティング入門	1後	2			1						
	ビジネス応用	オペレーションズマネジメント	2前		2		1						
		マーケティング応用	2前		2		1						
		アカウントティング応用	2前		2		1						
		法務リテラシーⅡ	2前		2			1					
		ファイナンス入門	2後		2		1						
		問題形成と問題解決	2後		2		1						
		組織行動論	2後		2								兼2
		ビジネスゲームによる経営意思決定	3前		2								兼1
		人的資源管理論	3前		2								兼2
		地域創生とイノベーション	3後		2		1						
		イノベーション特論	3後		2		1						
		コーポレートファイナンス	3後		2								兼1
	グローバル企業戦略論	3後		2								兼1	
	新興市場における事業開発	4前		2		1							
	クロスセクタールビジネスデザイン	4前		2								兼1	
	デザインと経営	4前		2								兼1	
税務会計・会計処理	4後		2								兼1		
ビジネス実践	イノベーションプロジェクトⅠ	1前	2			2	1	2					
	イノベーションプロジェクトⅡ	1後	2			2	1	2					
	スタートアップ基礎(起業論)	1後	2			1							
	イノベーションプロジェクトⅢ	2前	2			2	1	2					
	ビジネスフィールドリサーチⅠ【※】	2前	2			1	2	2					
	イノベーションプロジェクトⅣ	2後	2			2	1	2					
	ビジネスフィールドリサーチⅡ【※】	2後	2			1	2	2					
	イノベーションプロジェクトⅤ	3通	2			2	1	2					
	インターンシップⅠ【臨】	3前	12			3		2					
	インターンシップⅡ【臨】	3後	12			3		2					
	イノベーションプロジェクトⅥ	4通	2			2	1	2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	情報通信技術	コンピュータとソフトウェア基礎	1前	2		1						
		プログラミングⅠ【※】	1前	2		1						
		データ構造と処理法	1前	2		1						
		オペレーティングシステム	1前	2	2			1				
		プログラミングⅡ【※】	1後	2		1						
		ネットワーク技術	1後	2		1		1				
		オペレーティングシステム演習	1後	2	2		1					
		コンピュータアーキテクチャ	1後	2	2		1					
		ソフトウェア設計・構築	2前	2		1		1				
		データベース	2前	2		1						
		モバイルサービス概論	2前	2	2		1					
		情報系数学応用A	2前	2	2		1					
		情報技術演習Ⅰ	2後	2	2		1					
		システム設計演習	2後	2	2		1					
		データサイエンス	2後	2	2	2						
		情報系数学応用B	2後	2	2		1					
		情報系数学応用C	3前	2	2		1					
		システムデザイン基礎	Webシステム演習	2前	2	2		1				
	インタラクティブ・システムデザイン		2前	2	2			1				
	情報システムのプロジェクト管理		2後	2	2		1					
	情報技術演習Ⅱ		3前	2	2		1					
	ソフトウェアプロセスと品質		3前	2	2		1					
	モデル化と要求開発		3前	2	2		1					
	システムインテグレーション		3後	2	2		1	1				
	クラウド		3後	2	2		1	1				
	ビッグデータ		3後	2	2		1	1				
	IoT		3後	2	2	2						
	スーパーコンピュータ		4前	2	2		1					
	AI		4前	2	2		1	1				
	ネットワークセキュリティ		ネットワーク構築Ⅰ	2前	2	2			1			
			情報セキュリティ演習Ⅰ	2後	2	2		1				
			ネットワーク構築Ⅱ	2後	2	2			1			
			情報セキュリティ演習Ⅱ	3前	2	2		1				
			ネットワーク構築Ⅲ	3前	2	2			1			
			小計(66科目)	-	68	84	0	13	6	4	0	0
	グローバルコミュニケーション	ビジネス英語実習Ⅰ【※】	1前	2		1		1				兼1
ビジネス英語実習Ⅱ【※】		1後	2		1		1				兼1	
ビジネス英語実習Ⅲ【※】		2前	2		1		1				兼1	
ビジネス英語実習Ⅳ【※】		2後	2		1		1				兼1	
多文化理解		2後	2	2							兼1	
比較宗教論		2後	2	2							兼1	
グローバルビジネスと通訳		3前	2	2		1						
国際情勢論		3前	2	2							兼1	
日本文化		3前	2	2							兼1	
グローバルビジネスにおけるビジネスインテグレーション		3後	2	2							兼1	
国際メディア論		3後	2	2							兼1	
製造業における国際化		3後	2	2							兼1	
グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション		4前	2	2							兼1	
国際開発論		4前	2	2							兼1	
ファイナンス業における国際化		4前	2	2							兼1	
サービス業における国際化		4前	2	2							兼1	
グローバルビジネスにおけるネゴシエーション		4後	2	2							兼1	
国際経営と商習慣		4後	2	2							兼1	
農業・林業・漁業における国際化		4後	2	2							兼1	
小計(19科目)		-	8	30	0	1	0	1	0	0	兼7	
総合科目	総合演習	3後	2		12	5						
	総合実践演習	4通	4		12	5						
	小計(2科目)	-	6	0	0	12	5	0	0	0	兼0	
合計(103科目)	-	94	132	0	15	7	6	0	0	兼13		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
職業専門科目	情報通信技術	コンピュータとソフトウェア基礎	1前	2		1							
		プログラミングⅠ【※】	1前	2		1						兼2	
		データ構造と処理法	1前	2		1							
		オペレーティングシステム入門	1前	2	2				1				
		プログラミングⅡ【※】	1後	2		1						兼2	
		ネットワーク技術	1後	2		1		1					
		オペレーティングシステム演習	1後	2	2		1						
		コンピュータアーキテクチャ	1後	2	2		1						
		ソフトウェア設計・構築	2前	2		1		1					
		データベース	2前	2		1						兼1	
		モバイルサービス概論	2前	2	2		1					兼1	
		情報系数学応用A	2前	2	2		1						
		情報技術演習Ⅰ	2後	2	2		1						
		システム設計演習	2後	2	2		1					兼1	
		データサイエンス	2後	2	2	2							
		情報系数学応用B	2後	2	2		1						
		情報系数学応用C	3前	2	2		1						
		システムデザイン応用	Webシステム演習	2前	2	2			1				
	インタラクティブ・システムデザイン		2前	2	2				1				
	情報システムのプロジェクト管理		2後	2	2		1						
	情報技術演習Ⅱ		3前	2	2		1						
	ソフトウェアプロセスと品質		3前	2	2		1					兼0	
	モデル化と要求開発		3前	2	2		1						
	システムインテグレーション		3後	2	2		1	1					
	クラウド		3後	2	2		1	1		0		兼1	
	ビッグデータ		3後	2	2		1	1					
	IoT		3後	2	2	2							
	スーパーコンピュータ		4前	2	2		1						
	AI		4前	2	2		1	1					
	ネットワークセキュリティ		ネットワーク構築Ⅰ	2前	2	2			1				
			情報セキュリティ演習Ⅰ	2後	2	2		1					
			ネットワーク構築Ⅱ	2後	2	2			1				
			情報セキュリティ演習Ⅱ	3前	2	2		1					
			ネットワーク構築Ⅲ	3前	2	2			1				
			小計(66科目)	-	68	84	0	13	6	4	0	0	兼23
	グローバルコミュニケーション	ビジネス英語実習Ⅰ【※】	1前	2		1		1				兼3	
ビジネス英語実習Ⅱ【※】		1後	2		1		1				兼3		
ビジネス英語実習Ⅲ【※】		2前	2		1		1				兼2		
ビジネス英語実習Ⅳ【※】		2後	2		1		1				兼3		
多文化理解		2後	2	2							兼3		
比較宗教論		2後	2	2							兼1		
グローバルビジネスと通訳		3前	2	2		1							
国際情勢論		3前	2	2							兼2		
日本文化		3前	2	2							兼2		
グローバルビジネスにおけるビジネスインテグレーション		3後	2	2							兼1		
国際メディア論		3後	2	2							兼1		
製造業における国際化		3後	2	2							兼1		
グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション		4前	2	2					1		兼0		
国際開発論		4前	2	2							兼1		
ファイナンス業における国際化		4前	2	2							兼1		
サービス業における国際化		4前	2	2							兼1		
グローバルビジネスにおけるネゴシエーション		4後	2	2							兼0		
国際経営と商習慣		4後	2	2							兼2		
農業・林業・漁業における国際化		4後	2	2							兼1		
小計(19科目)		-	8	30	0	1	0	1	0	0	兼17		
総合科目	総合演習	3後	2		13	4							
	総合実践演習	4通	4		13	4							
	小計(2科目)	-	6	0	0	13	4	0	0	0	兼0		
合計(103科目)	-	94	132	0	16	6	6	0	0	兼48			

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

次により必修科目94単位、選択科目34単位以上、計128単位以上を修得すること。
卒業単位数は、以下の要件を満たす合計128単位以上とする。

- ・基礎科目20単位
 - －必修12単位
 - 選択必修8単位
 - ・先端グローバル社会、職業倫理、科学史、ICTと人間のうち2単位以上
 - ・数学基礎A、数学基礎B、数学基礎Cのうち4単位以上
 - ・上記6単位以上を含む、8単位以上
- ・職業専門科目82単位(臨地実務実習24単位を含む)
 - －必修68単位
 - 選択必修14単位
 - ・オペレーションズマネジメント、問題形成と問題解決、組織行動論、ビジネスゲームによる経営意思決定、人的資源管理論、イノベーション特論、グローバル企業戦略論から2単位以上
 - ・アカウントティング応用、法務リテラシーⅡ、ファイナンス入門、コーポレートファイナンスから2単位以上
 - ・ネットワーク構築Ⅰ、情報セキュリティ演習Ⅰから2単位以上
 - ・モバイルサービス概論、Webシステム演習、インタラクティブ・システムデザイン、データサイエンス、クラウド、ビッグデータ、IoT、スーパーコンピュータ、AIから2単位以上
 - ・上記8単位以上を含む、14単位以上

- ・展開科目20単位
 - －必修8単位
 - 選択必修12単位
 - ・グローバルビジネスと通訳、グローバルビジネスにおけるディスカッション・ディベート、グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション、グローバルビジネスにおけるネゴシエーションから2単位以上
 - ・製造業における国際化、ファイナンス業における国際化、サービス業における国際化、農業・林業・漁業における国際化から2単位以上
 - ・多文化理解、比較宗教論、国際情勢論、日本文化、国際開発論、国際メディア論、国際経営と商習慣から8単位以上

- ・総合科目6単位(必修)

実習科目の40単位

うち臨地実務実習(インターンシップ) 24単位を含む
(履修科目の登録の上限：1年次46単位(年間)
2-4年次42単位(年間))

科目の登録の上限：1年次46単位(年間)
2-4年次42単位(年間))

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

次により必修科目94単位、選択科目34単位以上、計128単位以上を修得すること。
卒業単位数は、以下の要件を満たす合計128単位以上とする。

- ・基礎科目20単位
 - －必修12単位
 - 選択必修8単位
 - ・先端グローバル社会、職業倫理、科学史、ICTと人間のうち2単位以上
 - ・数学基礎A、数学基礎B、数学基礎Cのうち4単位以上
 - ・上記6単位以上を含む、8単位以上
- ・職業専門科目82単位(臨地実務実習24単位を含む)
 - －必修68単位
 - 選択必修14単位
 - ・オペレーションズマネジメント、問題形成と問題解決、組織行動論、ビジネスゲームによる経営意思決定、人的資源管理論、イノベーション特論、グローバル企業戦略論から2単位以上
 - ・アカウントティング応用、法務リテラシーⅡ、ファイナンス入門、コーポレートファイナンスから2単位以上
 - ・ネットワーク構築Ⅰ、情報セキュリティ演習Ⅰから2単位以上
 - ・モバイルサービス概論、Webシステム演習、インタラクティブ・システムデザイン、データサイエンス、クラウド、ビッグデータ、IoT、スーパーコンピュータ、AIから2単位以上
 - ・上記8単位以上を含む、14単位以上

- ・展開科目20単位
 - －必修8単位
 - 選択必修12単位
 - ・グローバルビジネスと通訳、グローバルビジネスにおけるディスカッション・ディベート、グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション、グローバルビジネスにおけるネゴシエーションから2単位以上
 - ・製造業における国際化、ファイナンス業における国際化、サービス業における国際化、農業・林業・漁業における国際化から2単位以上
 - ・多文化理解、比較宗教論、国際情勢論、日本文化、国際開発論、国際メディア論、国際経営と商習慣から8単位以上

- ・総合科目6単位(必修)

実習科目の40単位

うち臨地実務実習(インターンシップ) 24単位を含む
(履修科目の登録の上限：1年次46単位(年間)
2-4年次42単位(年間))

科目の登録の上限：1年次46単位(年間)
2-4年次42単位(年間))

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目	現代社会基礎	イノベーションの志	1前	2			1						兼2	
		スタディスキル	1前	2			1							
		英語コア・スキルズⅠ	1前	2					1					
		数学基礎A	1前	2	2		1							
		リサーチ入門	1後	2			1	0						
		英語コア・スキルズⅡ	1後	2					1					
		数学基礎B	1後	2	2		1							
		数学基礎C	1後	2	2		1							
		キャリアデザインⅠ	2前	1			1							
		職業倫理	2前	2	2									
		先端グローバル社会	2前	2	2									
		英語アカデミックリテラシー	2前	2	2				2					
		科学史	2後	2	2									
		ICTと人間	2後	2	2									
英米文学演習	2後	2	2		1									
キャリアデザインⅡ	3後	1			1									
小計(16科目)	-		12	18	0	6	1	2	0	0		兼8		
職業専門科目	ビジネス基礎	マネジメント(経営学基礎)	1前	2			1					兼1		
		マーケティング基礎	1前	2			1							
		法務リテラシーⅠ	1後	2				1						
		アカウンティング入門	1後	2			1							
	ビジネス応用	オペレーションズマネジメント	2前	2	2		1					兼2 兼1 兼2		
		マーケティング応用	2前	2	2		1							
		アカウンティング応用	2前	2	2		1							
		法務リテラシーⅡ	2前	2	2			1						
		ファイナンス入門	2後	2	2			1						
		問題形成と問題解決	2後	2	2		1							
		組織行動論	2後	2	2									
		ビジネスゲームによる経営意思決定	3前	2	2									
		人的資源管理論	3前	2	2									
		地域創生とイノベーション	3後	2	2		1							
		イノベーション特論	3後	2	2		1							
		コーポレートファイナンス	3後	2	2									
	経営	グローバル企業戦略論	3後	2	2							兼1 兼1		
		新興市場における事業開発	4前	2	2		1							
		クロステックビジネスデザイン	4前	2	2							兼1		
		デザインと経営	4前	2	2							兼1		
		税務会計・会計処理	4後	2	2							兼1		
		ビジネス実践	イノベーションプロジェクトⅠ	1前	2			2	1	2				兼4 兼2
			イノベーションプロジェクトⅡ	1後	2			2	1	2				
			スタートアップ基礎(起業論)	1後	2			1						
イノベーションプロジェクトⅢ	2前		2			2	1	2				兼3 兼1		
ビジネスフィールドリサーチⅠ【※】	2前		2			1	2	2						
イノベーションプロジェクトⅣ	2後		2			2	1	2				兼3 兼1		
ビジネスフィールドリサーチⅡ【※】	2後		2			1	2	2						
イノベーションプロジェクトⅤ	3通		2			2	1	2				兼5		
インターンシップⅠ【臨】	3前	12			3		2							
インターンシップⅡ【臨】	3後	12			3		2							
イノベーションプロジェクトⅥ	4通	2			2	1	2							

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	現代社会基礎	イノベーションの志	1前	2			1					兼2	
		スタディスキル	1前	2			1						
		英語コア・スキルズⅠ	1前	2					1				
		数学基礎A	1前	2	2		1						
		リサーチ入門	1後	2			1	0					
		英語コア・スキルズⅡ	1後	2					1				
		数学基礎B	1後	2	2		1						
		数学基礎C	1後	2	2		1						
		キャリアデザインⅠ	2前	1			1						
		職業倫理	2前	2	2								
		先端グローバル社会	2前	2	2								
		英語アカデミックリテラシー	2前	2	2				2				
		科学史	2後	2	2								
		ICTと人間	2後	2	2								
英米文学演習	2後	2	2		1								
キャリアデザインⅡ	3後	1			1								
小計(16科目)	-		12	18	0	6	1	2	0	0		兼9	
職業専門科目	ビジネス基礎	マネジメント(経営学基礎)	1前	2			1					兼1	
		マーケティング基礎	1前	2			1						
		法務リテラシーⅠ	1後	2				1					
		アカウンティング入門	1後	2			1						
	ビジネス応用	オペレーションズマネジメント	2前	2	2		1					兼1 兼1 兼1 兼1	
		マーケティング応用	2前	2	2		1						
		アカウンティング応用	2前	2	2		1						
		法務リテラシーⅡ	2前	2	2			1					
		ファイナンス入門	2後	2	2			1					
		問題形成と問題解決	2後	2	2		1						
		組織行動論	2後	2	2								
		ビジネスゲームによる経営意思決定	3前	2	2								
		人的資源管理論	3前	2	2								
		地域創生とイノベーション	3後	2	2		1						
		イノベーション特論	3後	2	2		1						
		コーポレートファイナンス	3後	2	2								
	経営	グローバル企業戦略論	3後	2	2							兼1 兼1	
		新興市場における事業開発	4前	2	2		1						
		クロステックビジネスデザイン	4前	2	2							兼1	
		デザインと経営	4前	2	2							兼1	
		税務会計・会計処理	4後	2	2							兼1	
		ビジネス実践	イノベーションプロジェクトⅠ	1前	2			2	1	2			
			イノベーションプロジェクトⅡ	1後	2			2	1	2			
			スタートアップ基礎(起業論)	1後	2			1					
イノベーションプロジェクトⅢ	2前		2			2	1	2					
ビジネスフィールドリサーチⅠ【※】	2前		2			1	2	2					
イノベーションプロジェクトⅣ	2後		2			2	1	2					
ビジネスフィールドリサーチⅡ【※】	2後		2			1	2	2					
イノベーションプロジェクトⅤ	3通		2			2	1	2					
インターンシップⅠ【臨】	3前	12			3		2						
インターンシップⅡ【臨】	3後	12			3		2						
イノベーションプロジェクトⅥ	4通	2			2	1	2						

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	情報通信技術	コンピュータとソフトウェア基礎	1前	2		1						
		プログラミングⅠ【※】	1前	2		1						兼2
		データ構造と処理法	1前	2		1						
		オペレーティングシステム入門	1前	2			1					
		プログラミングⅡ【※】	1後	2			1					兼2
		ネットワーク技術	1後	2		1		1				
		オペレーティングシステム演習	1後	2		1						
		コンピュータアーキテクチャ	1後	2		1						
		ソフトウェア設計・構築	2前	2			1					兼1
		データベース	2前	2			1					
		モバイルサービス概論	2前	2		1						
		情報系数学応用A	2前	2			1					
		情報技術演習Ⅰ	2後	2		1						
		システム設計演習	2後	2			1					兼1
		データサイエンス	2後	2		2						
	情報系数学応用B	2後	2		1							
	情報系数学応用C	3前	2		1							
	システムデザイン基礎	Webシステム演習	2前	2		1						
		インタラクティブシステムデザイン	2前	2			1					
		情報システムのプロジェクト管理	2後	2		1						
		情報技術演習Ⅱ	3前	2		1						兼1
		ソフトウェアプロセスと品質	3前	2		1						
		モデル化と要求開発	3前	2		1						
		システムインテグレーション	3後	2		1	1					
		クラウド	3後	2		1	1		0			兼1
ビッグデータ		3後	2		1	1						
IoT		3後	2		2							
システムデザイン応用	スーパーコンピュータ	4前	2		1							
	AI	4前	2		1	1						
	ネットワーク構築Ⅰ	2前	2				1					
	情報セキュリティ演習Ⅰ	2後	2		1							
	ネットワーク構築Ⅱ	2後	2				1					
	情報セキュリティ演習Ⅱ	3前	2		1							
	ネットワーク構築Ⅲ	3前	2				1					
	小計(66科目)	-	68	84	0	13	6	4	0	0		兼22
	グローバルコミュニケーション	ビジネス英語実習Ⅰ【※】	1前	2		1		1				兼2
		ビジネス英語実習Ⅱ【※】	1後	2		1		1				兼2
ビジネス英語実習Ⅲ【※】		2前	2		1		1				兼3	
ビジネス英語実習Ⅳ【※】		2後	2		1		1				兼2	
多文化理解		2後	2								兼3	
比較宗教論		2後	2								兼1	
グローバルビジネスと通訳		3前	2		1							
国際情勢論		3前	2								兼2	
日本文化		3前	2								兼1	
グローバルビジネスにおけるビジネスコミュニケーション		3後	2								兼1	
国際メディア論		3後	2								兼1	
製造業における国際化		3後	2								兼1	
グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション		4前	2								兼1	
国際開発論		4前	2								兼1	
ファイナンス業における国際化		4前	2								兼1	
サービス業における国際化		4前	2								兼1	
グローバルビジネスにおけるネゴシエーション		4後	2								兼1	
国際経営と商習慣		4後	2								兼1	
農業・林業・漁業における国際化		4後	2								兼1	
小計(19科目)	-	8	30	0	1	0	1	0	0		兼16	
総合科目	総合演習	3後	2			13	4					
	総合実践演習	4通	4			13	4					
	小計(2科目)	-	6	0	0	13	4	0	0	0		兼0
合計(103科目)	-	94	132	0	16	6	6	0	0		兼43	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	情報通信技術	コンピュータとソフトウェア基礎	1前	2		1						
		プログラミングⅠ【※】	1前	2			1					兼2
		データ構造と処理法	1前	2		1						
		オペレーティングシステム入門	1前	2				1				
		プログラミングⅡ【※】	1後	2				1				兼2
		ネットワーク技術	1後	2		1			1			
		オペレーティングシステム演習	1後	2		1						
		コンピュータアーキテクチャ	1後	2		1						
		ソフトウェア設計・構築	2前	2			1					兼1
		データベース	2前	2			1					
		モバイルサービス概論	2前	2		1						
		情報系数学応用A	2前	2			1					
		情報技術演習Ⅰ	2後	2		1						
		システム設計演習	2後	2			1					
		データサイエンス	2後	2		2						
	情報系数学応用B	2後	2		1							
	情報系数学応用C	3前	2		1							
	システムデザイン基礎	Webシステム演習	2前	2			1					
		インタラクティブシステムデザイン	2前	2				1				
		情報システムのプロジェクト管理	2後	2		1						
		情報技術演習Ⅱ	3前	2		1						兼1
		ソフトウェアプロセスと品質	3前	2		1						
		モデル化と要求開発	3前	2		1						
		システムインテグレーション	3後	2		1	1					
		クラウド	3後	2		1	1		0			
ビッグデータ		3後	2		1	1						
IoT		3後	2		2							
システムデザイン応用	スーパーコンピュータ	4前	2		1							
	AI	4前	2		1	1						
	ネットワーク構築Ⅰ	2前	2				1					
	情報セキュリティ演習Ⅰ	2後	2		1							
	ネットワーク構築Ⅱ	2後	2				1					
	情報セキュリティ演習Ⅱ	3前	2		1							
	ネットワーク構築Ⅲ	3前	2				1					
	小計(66科目)	-	68	84	0	13	6	4	0	0		兼8
	グローバルコミュニケーション	ビジネス英語実習Ⅰ【※】	1前	2		1		1				兼3
		ビジネス英語実習Ⅱ【※】	1後	2		1		1				兼3
ビジネス英語実習Ⅲ【※】		2前	2		1		1				兼3	
ビジネス英語実習Ⅳ【※】		2後	2		1		1				兼3	
多文化理解		2後	2								兼3	
比較宗教論		2後	2								兼1	
グローバルビジネスと通訳		3前	2		1							
国際情勢論		3前	2								兼1	
日本文化		3前	2								兼1	
グローバルビジネスにおけるビジネスコミュニケーション		3後	2								兼1	
国際メディア論		3後	2								兼1	
製造業における国際化		3後	2								兼1	
グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション		4前	2								兼1	
国際開発論		4前	2								兼1	
ファイナンス業における国際化		4前	2								兼1	
サービス業における国際化		4前	2								兼1	
グローバルビジネスにおけるネゴシエーション		4後	2								兼1	
国際経営と商習慣		4後	2								兼1	
農業・林業・漁業における国際化		4後	2								兼1	
小計(19科目)	-	8	30	0	1	0	1	0	0		兼13	
総合科目	総合演習	3後	2			13	4					
	総合実践演習	4通	4			13	4					
	小計(2科目)	-	6	0	0	13	4	0	0	0		兼0
合計(103科目)	-	94	132	0	16	6	6	0	0		兼26	

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

次により必修科目94単位、選択科目34単位以上、計128単位以上を修得すること。
卒業単位数は、以下の要件を満たす合計128単位以上とする。

- ・基礎科目20単位
 - －必修12単位
 - 選択必修8単位
 - ・先端グローバル社会、職業倫理、科学史、ICTと人間のうち2単位以上
 - ・数学基礎A、数学基礎B、数学基礎Cのうち4単位以上
 - ・上記6単位以上を含む、8単位以上
 - ・職業専門科目82単位(臨地実務実習24単位を含む)
 - －必修68単位
 - 選択必修14単位
 - ・オペレーションズマネジメント、問題形成と問題解決、組織行動論、ビジネスゲームによる経営意思決定、人的資源管理論、イノベーション特論、グローバル企業戦略論から2単位以上
 - ・アカウントティング応用、法務リテラシーⅡ、ファイナンス入門、コーポレートファイナンスから2単位以上
 - ・ネットワーク構築Ⅰ、情報セキュリティ演習Ⅰから2単位以上
 - ・モバイルサービス概論、Webシステム演習、インタラクティブ・システムデザイン、データサイエンス、クラウド、ビッグデータ、IoT、スーパーコンピュータ、AIから2単位以上
 - ・上記8単位以上を含む、14単位以上
 - ・展開科目20単位
 - －必修8単位
 - 選択必修12単位
 - ・グローバルビジネスと通訳、グローバルビジネスにおけるディスカッション・ディベート、グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション、グローバルビジネスにおけるネゴシエーションから2単位以上
 - ・製造業における国際化、ファイナンス業における国際化、サービス業における国際化、農業・林業・漁業における国際化から2単位以上
 - ・多文化理解、比較宗教論、国際情勢論、日本文化、国際開発論、国際メディア論、国際経営と商習慣から8単位以上
 - ・総合科目6単位(必修)
- 実習科目の40単位
うち臨地実務実習(インターンシップ) 24単位を含む
(履修科目の登録の上限：1年次46単位(年間)
2-4年次42単位(年間))
科目の登録の上限：1年次46単位(年間)
2-4年次42単位(年間))

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

次により必修科目94単位、選択科目34単位以上、計128単位以上を修得すること。
卒業単位数は、以下の要件を満たす合計128単位以上とする。

- ・基礎科目20単位
 - －必修12単位
 - 選択必修8単位
 - ・先端グローバル社会、職業倫理、科学史、ICTと人間のうち2単位以上
 - ・数学基礎A、数学基礎B、数学基礎Cのうち4単位以上
 - ・上記6単位以上を含む、8単位以上
 - ・職業専門科目82単位(臨地実務実習24単位を含む)
 - －必修68単位
 - 選択必修14単位
 - ・オペレーションズマネジメント、問題形成と問題解決、組織行動論、ビジネスゲームによる経営意思決定、人的資源管理論、イノベーション特論、グローバル企業戦略論から2単位以上
 - ・アカウントティング応用、法務リテラシーⅡ、ファイナンス入門、コーポレートファイナンスから2単位以上
 - ・ネットワーク構築Ⅰ、情報セキュリティ演習Ⅰから2単位以上
 - ・モバイルサービス概論、Webシステム演習、インタラクティブ・システムデザイン、データサイエンス、クラウド、ビッグデータ、IoT、スーパーコンピュータ、AIから2単位以上
 - ・上記8単位以上を含む、14単位以上
 - ・展開科目20単位
 - －必修8単位
 - 選択必修12単位
 - ・グローバルビジネスと通訳、グローバルビジネスにおけるディスカッション・ディベート、グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション、グローバルビジネスにおけるネゴシエーションから2単位以上
 - ・製造業における国際化、ファイナンス業における国際化、サービス業における国際化、農業・林業・漁業における国際化から2単位以上
 - ・多文化理解、比較宗教論、国際情勢論、日本文化、国際開発論、国際メディア論、国際経営と商習慣から8単位以上
 - ・総合科目6単位(必修)
- 実習科目の40単位
うち臨地実務実習(インターンシップ) 24単位を含む
(履修科目の登録の上限：1年次46単位(年間)
2-4年次42単位(年間))
科目の登録の上限：1年次46単位(年間)
2-4年次42単位(年間))

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	現代社会基礎	イノベーションの志	1前	2			1						
		スタディスキル	1前	2			1						
		英語コア・スキルズⅠ	1前	2					1				兼1
		数学基礎A	1前	2	2		1						
		リサーチ入門	1後	2			1	0					
		英語コア・スキルズⅡ	1後	2					1				兼1
		数学基礎B	1後	2	2			1					
		数学基礎C	1後	2	2		1						
		キャリアデザインⅠ	2前	1			1						
		職業倫理	2前	2	2								兼1
		先端グローバル社会	2前	2	2								兼1
		英語アカデミックリテラシー	2前	2	2				1				
		科学史	2後	2	2								兼1
		ICTと人間	2後	2	2								兼1
		英米文学演習	2後	2	2			1					
		キャリアデザインⅡ	3後	1			1						
小計(16科目)		-	12	18	0	6	1	1	0	0		兼5	
職業専門科目	ビジネス基礎	マネジメント(経営学基礎)	1前	2			1						
		マーケティング基礎	1前	2			1						
		法務リテラシーⅠ	1後	2				1					
		アカウンティング入門	1後	2			1						
		オペレーションズマネジメント	2前	2	2		1						
	ビジネス応用	マーケティング応用	2前	2	2		1						
		アカウンティング応用	2前	2	2		1						
		法務リテラシーⅡ	2前	2	2			1					
		ファイナンス入門	2後	2	2		1						
		問題形成と問題解決	2後	2	2		1						
		組織行動論	2後	2	2							兼1	
		ビジネスゲームによる経営意思決定	3前	2	2							兼1	
		人的資源管理論	3前	2	2							兼1	
		地域創生とイノベーション	3後	2	2		1						
		イノベーション特論	3後	2	2		1						
		コーポレートファイナンス	3後	2	2							兼1	
		グローバル企業戦略論	3後	2	2							兼1	
	新興市場における事業開発	4前	2	2		1							
	クロスセクタービジネスデザイン	4前	2	2							兼1		
	デザインと経営	4前	2	2							兼1		
	税務会計・会計処理	4後	2	2							兼1		
	ビジネス実践	イノベーションプロジェクトⅠ	1前	2			2	1	2				
		イノベーションプロジェクトⅡ	1後	2			2	1	2				
		スタートアップ基礎(起業論)	1後	2			1						
		イノベーションプロジェクトⅢ	2前	2			2	1	2				
		ビジネスフィールドリサーチⅠ【※】	2前	2			1	2	2				
		イノベーションプロジェクトⅣ	2後	2			2	1	2				
ビジネスフィールドリサーチⅡ【※】		2後	2			1	2	2					
イノベーションプロジェクトⅤ		3通	2			2	1	2					
インターンシップⅠ【臨】		3前	12			3		2					
インターンシップⅡ【臨】		3後	12			3		2					
イノベーションプロジェクトⅥ	4通	2			2	1	2						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	情報通信技術	コンピュータとソフトウェア基礎	1前	2			1					
		プログラミングⅠ【※】	1前	2				1				
		データ構造と処理法	1前	2			1					
		オペレーティングシステム	1前	2	2				1			
		プログラミングⅡ【※】	1後	2				1				
		ネットワーク技術	1後	2			1		1			
		オペレーティングシステム演習	1後	2	2			1				
		コンピュータアーキテクチャ	1後	2	2			1				
		ソフトウェア設計・構築	2前	2	2				1			
		データベース	2前	2	2			1				
		モバイルサービス概論	2前	2	2			1				
		情報系数学応用A	2前	2	2				1			
		情報技術演習Ⅰ	2後	2	2			1				
		システム設計演習	2後	2	2				1			
		データサイエンス	2後	2	2			2				
	情報系数学応用B	2後	2	2			1					
	情報系数学応用C	3前	2	2			1					
	システムデザイン応用	Webシステム演習	2前	2	2			1				
		インタラクティブシステムデザイン	2前	2	2				1			
		情報システムのプロジェクト管理	2後	2	2			1				
		情報技術演習Ⅱ	3前	2	2			1				
		ソフトウェアプロセスと品質	3前	2	2				1			
		モデル化と要求開発	3前	2	2				1			
		システムインテグレーション	3後	2	2			1	1			
		クラウド	3後	2	2				1	0		
		ビッグデータ	3後	2	2			1	1			
		IoT	3後	2	2			2				
		スーパーコンピュータ	4前	2	2			1				
		AI	4前	2	2			1	1			
		ネットワークセキュリティ	ネットワーク構築Ⅰ	2前	2	2				1		
情報セキュリティ演習Ⅰ			2後	2	2			1				
ネットワーク構築Ⅱ			2後	2	2				1			
情報セキュリティ演習Ⅱ	3前		2	2			1					
ネットワーク構築Ⅲ	3前		2	2				1				
小計(66科目)	-	68	84	0	13	6	4	0	0	兼5		
展開科目	グローバルコミュニケーション	ビジネス英語実習Ⅰ【※】	1前	2			1		1			兼2
		ビジネス英語実習Ⅱ【※】	1後	2			1		1			兼2
		ビジネス英語実習Ⅲ【※】	2前	2			1		1			兼2
		ビジネス英語実習Ⅳ【※】	2後	2			1		1			兼2
		多文化理解	2後	2	2							兼1
		比較宗教論	2後	2	2							兼1
		グローバルビジネスと通訳	3前	2	2		1					
		国際情勢論	3前	2	2							兼1
		日本文化	3前	2	2							兼1
		グローバルビジネスにおけるデジタルトランスフォーメーション	3後	2	2							兼1
		国際メディア論	3後	2	2							兼1
		製造業における国際化	3後	2	2							兼1
		グローバルビジネスにおけるフレキシビリティ	4前	2	2							兼1
		国際開発論	4前	2	2							兼1
		ファイナンス業における国際化	4前	2	2							兼1
		サービス業における国際化	4前	2	2							兼1
		グローバルビジネスにおけるイノベーション	4後	2	2							兼1
		国際経営と商習慣	4後	2	2							兼1
		農業・林業・漁業における国際化	4後	2	2							兼1
小計(19科目)	-	8	30	0	1	0	1	0	0	兼8		
総合科目	総合演習	総合理論演習	3後	2			13	4				
		総合実践演習	4通	4			13	4				
		小計(2科目)	-	6	0	0	13	4	0	0	0	兼0
合計(103科目)			-	94	132	0	16	6	6	0	0	兼15

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

次により必修科目94単位、選択科目34単位以上、計128単位以上を修得すること。
卒業単位数は、以下の要件を満たす合計128単位以上とする。

- ・基礎科目20単位
 - －必修12単位
 - 選択必修8単位
 - ・先端グローバル社会、職業倫理、科学史、ICTと人間のうち2単位以上
 - ・数学基礎A、数学基礎B、数学基礎Cのうち4単位以上
 - ・上記6単位以上を含む、8単位以上
- ・職業専門科目82単位(臨地実務実習24単位を含む)
 - －必修68単位
 - 選択必修14単位
 - ・オペレーションズマネジメント、問題形成と問題解決、組織行動論、ビジネスゲームによる経営意思決定、人的資源管理論、イノベーション特論、グローバル企業戦略論から2単位以上
 - ・アカウントティング応用、法務リテラシーII、ファイナンス入門、コーポレートファイナンスから2単位以上
 - ・ネットワーク構築I、情報セキュリティ演習Iから2単位以上
 - ・モバイルサービス概論、Webシステム演習、インタラクティブ・システムデザイン、データサイエンス、クラウド、ビッグデータ、IoT、スーパーコンピュータ、AIから2単位以上
 - ・上記8単位以上を含む、14単位以上
- ・展開科目20単位
 - －必修8単位
 - 選択必修12単位
 - ・グローバルビジネスと通訳、グローバルビジネスにおけるディスカッション・ディベート、グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション、グローバルビジネスにおけるネゴシエーションから2単位以上
 - ・製造業における国際化、ファイナンス業における国際化、サービス業における国際化、農業・林業・漁業における国際化から2単位以上
 - ・多文化理解、比較宗教論、国際情勢論、日本文化、国際開発論、国際メディア論、国際経営と商習慣から8単位以上
- ・総合科目6単位(必修)

実習科目の40単位

うち臨地実務実習(インターンシップ) 24単位を含む
(履修科目の登録の上限: 1年次46単位(年間)
2-4年次42単位(年間))
科目の登録の上限: 1年次46単位(年間)
2-4年次42単位(年間))

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・授業内容の充実を目的に、「英語コア・スキルズⅠ」の兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「英語コア・スキルズⅡ」の兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・「リサーチ入門」担当准教授の就任辞退及び当該科目担当教授の就任に伴い、「リサーチ入門」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・「クラウド」担当講師の就任辞退に伴い、「クラウド」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「ビジネス英語実習Ⅰ」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「ビジネス英語実習Ⅱ」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「ビジネス英語実習Ⅲ」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「ビジネス英語実習Ⅳ」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・「総合理論演習」担当准教授の就任辞退及び当該科目担当教授の就任に伴い、「総合理論演習」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授13」、「准教授5」から「准教授4」に変更。
- ・「総合実践演習」担当准教授の就任辞退及び当該科目担当教授の就任に伴い、「総合実践演習」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授13」、「准教授5」から「准教授4」に変更。

【令和3年度】

- ・授業内容の充実を目的に、「英語コア・スキルズⅠ」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「英語コア・スキルズⅡ」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・授業担当教員の変更に伴い、「職業倫理」の兼任教員の配置を「1」から「3」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「英語アカデミックリテラシー」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更。
- ・「IGTと人間」担当兼任講師の就任延期による授業担当教員の変更に伴い、「IGTと人間」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「マーケティング基礎」の兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「プログラミングⅠ」の兼任教員の配置を「0」から「2」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「プログラミングⅡ」の兼任教員の配置を「0」から「2」に変更。
- ・設置認可時の付帯事項を履行するため、「オペレーティングシステム」の授業科目名を「オペレーティングシステム入門」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「ビジネス英語実習Ⅰ」の兼任教員の配置を「2」から「3」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「ビジネス英語実習Ⅱ」の兼任教員の配置を「2」から「3」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「ビジネス英語実習Ⅲ」の兼任教員の配置を「2」から「3」に変更。
- ・授業内容の充実を目的に、「ビジネス英語実習Ⅳ」の兼任教員の配置を「2」から「3」に変更。
- ・「多文化理解」担当兼任講師の就任延期による授業担当教員の変更に伴い、「多文化理解」の兼任教員の配置を「1」から「3」に変更。

【令和4年度】

- ・「職業倫理」担当兼任講師1名の辞任に伴い、「職業倫理」の兼任教員の配置を「3」から「2」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「組織行動論」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「人的資源管理論」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・専門職大学設置基準に基づく40名以下での授業実施にあたり、開講クラス数を増加。これに伴う指導体制構築のため、以下のとおり教員配置を変更。
- ・「イノベーションプロジェクトⅠ」の兼任教員の配置を「0」から「4」に変更。
- ・「イノベーションプロジェクトⅡ」の兼任教員の配置を「0」から「2」に変更。
- ・「イノベーションプロジェクトⅢ」の兼任教員の配置を「0」から「3」に変更。
- ・「ビジネスフィールドリサーチⅠ」の兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・「イノベーションプロジェクトⅣ」の兼任教員の配置を「0」から「3」に変更。
- ・「ビジネスフィールドリサーチⅡ」の兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・「イノベーションプロジェクトⅤ」の兼任教員の配置を「0」から「5」に変更。
- ・「ソフトウェア設計・構築」の兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・「システム設計演習」の兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「ソフトウェアプロセスと品質」の兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「クラウド」の兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・「ビジネス英語実習Ⅰ」担当兼任講師2名の辞任による指導体制の見直しに伴い、「ビジネス英語実習Ⅰ」の兼任教員の配置を「3」から「2」に変更。
- ・「ビジネス英語実習Ⅱ」担当兼任講師2名の辞任による指導体制の見直しに伴い、「ビジネス英語実習Ⅱ」の兼任教員の配置を「3」から「2」に変更。
- ・「ビジネス英語実習Ⅳ」担当兼任講師1名の辞任による指導体制の見直しに伴い、「ビジネス英語実習Ⅳ」の兼任教員の配置を「3」から「2」に変更。
- ・「国際情勢論」担当兼任講師の就任延期による授業担当教員の変更に伴い、兼任教員数を「1」から「2」に変更。

【令和5年度】

- ・指導体制の充実を目的に、「キャリアデザインⅠ」の兼任教員の配置を「0」から「2」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「キャリアデザインⅡ」の兼任教員の配置を「0」から「2」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「新興市場における事業開発」の兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・「イノベーションプロジェクトⅠ」担当兼任講師2名の辞任による指導体制の見直しに伴い、「イノベーションプロジェクトⅠ」の兼任教員の配置を「4」から「2」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「ビジネスフィールドリサーチⅠ」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「ビジネスフィールドリサーチⅡ」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・「イノベーションプロジェクトⅤ」担当兼任講師1名の辞任による指導体制の見直しに伴い、「イノベーションプロジェクトⅤ」の兼任教員の配置を「5」から「2」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「イノベーションプロジェクトⅥ」の兼任教員の配置を「0」から「2」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「データベース」の兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・「ソフトウェアプロセスと品質」担当兼任講師の退任に伴い、「ソフトウェアプロセスと品質」の兼任講師の配置を「1」から「0」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「ビジネス英語実習Ⅰ」の兼任教員の配置を「2」から「3」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「ビジネス英語実習Ⅱ」の兼任教員の配置を「2」から「3」に変更。
- ・「ビジネス英語実習Ⅲ」担当兼任講師1名の辞任による指導体制の見直しに伴い、「ビジネス英語実習Ⅲ」の兼任教員の配置を「3」から「2」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「ビジネス英語実習Ⅳ」の兼任教員の配置を「2」から「3」に変更。
- ・指導体制の充実を目的に、「日本文化」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・「グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション」担当兼任講師の辞任による授業担当教員の変更に伴い、「グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション」の兼任教員の配置を「1」から「0」、専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・「グローバルビジネスにおけるネゴシエーション」担当兼任講師の辞任に伴い、「グローバルビジネスにおけるネゴシエーション」の兼任教員の配置を「1」から「0」に変更。（後任未定であるが、令和5年10月から兼任講師を採用予定で募集中。）
- ・「国際経営と商習慣」担当兼任講師の就任辞退による授業担当教員の変更に伴い、「国際経営と商習慣」の兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。

- (注) 2(1)①授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
37 科目	66 科目	0 科目	103 科目	37 科目 [0]	66 科目 [0]	0 科目 [0]	103 科目 [0]	-

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{103} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積： 10,378.79㎡ 借用期間： 平成30年3月31日から 令和50年3月30日			
	校 舎 敷 地	6,279.5㎡	0㎡	0㎡	6,279.5㎡				
	運 動 場 用 地	3,627㎡	0㎡	0㎡	3,627㎡				
	小 計	9,906.5㎡	0㎡	0㎡	9,906.5㎡				
	そ の 他	472.29㎡	0㎡	0㎡	472.29㎡				
	合 計	10,378.79㎡	0㎡	0㎡	10,378.79㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		5451.87㎡ (5451.87㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	5451.87㎡ (5451.87㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実 験 実 習 室	情 報 処 理 学 習 施 設	語 学 学 習 施 設	大学全体			
	7室	10室	2室	0室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		学長室1室を含む			
	情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科			28 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 設置認可申請時の計画に基づき図書を増冊したが、学生の利便性を高めるために外国書を1,016冊から1,421冊に増加した。また、当初予定していた図書の廃版・絶版による図書の不足、外国書の冊数増加に伴う予算の組み換えにより、図書が241冊減少しているが、これらについては完成年度までに計画通りに履行する予定。(3) 図書購入のため。(4) 図書購入のため。(5)	
	情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科	11,972 [1,473] 11,180 [-1,452] 10,177 [-1,016] (11,972 [1,473]) (11,180 [-1,452]) (9,936 [-1,421]) (6,896 [-788])	38 [2]	8 [8]	4	-	-		
		(38 [2])	(8 [8])	(4)	(-)	(-)			
	計	11,972 [1,473] 11,180 [-1,452] 10,177 [-1,016] (11,972 [1,473]) (11,180 [-1,452]) (9,936 [-1,421]) (6,896 [-788])	38 [2]	8 [8]	4	-	-		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	304.61㎡		124席		30,000冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	-㎡		該 当 な し						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	令和4年度までに設置時の図書購入に係る計画を履行済みのため、図書購入費を減額。(5)
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	27,570千円	13,922千円	2,000千円 5,000千円	
	共同研究費等	-千円	-千円	設備購入費	299,479千円	5,000千円	5,000千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,600千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、雑収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を**赤字で見え消し**修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に**赤字**で記入してください。
なお、昨年度の報告において**赤字で見え消し**した部分については、**見え消しのまま黒字**にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	情報経営イノベーション専門職大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
情報経営イノベーション学部	年	人	年次人	人	-	倍	倍	倍	倍	年度	年度	-						
情報経営イノベーション学部	4	200	0	800	-	1.06	-	0.93	-	-	令和2	-						
情報経営イノベーション学部	4	200	0	800	情報経営イノベーション学士(専門職)	1.06	-	0.93	-	-	令和2	東京都墨田区文花1-18-13						
大学全体	4	200	0	800	-	-	-	-	-	-	-	-						

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
なお、**本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。**
（様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。）
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度A Cの対象となる学部等については、**必ず下線を引いてください。**
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率（控除後含む）」及び「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、**小数点以下第2位まで記入**してください。
また、**0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず本字にしてください。**
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

		【令和2年度】		【令和3年度】		【令和4年度】		【令和5年度】	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
専	教授(学長)	中村 伊知哉 (50) <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	中村 伊知哉 (50) <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	中村 伊知哉 (60) <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	中村 伊知哉 (61) <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	中村 伊知哉 (62) <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	中村 伊知哉 (62) <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	中村 伊知哉 (62) <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	中村 伊知哉 (62) <令和2年4月> 博士(政策・メディア)
専	教授	中嶋 隆一 (66) <令和2年4月> 経営学修士	中嶋 隆一 (66) <令和2年4月> 経営学修士	中嶋 隆一 (67) <令和2年4月> 経営学修士	中嶋 隆一 (68) <令和2年4月> 経営学修士	中嶋 隆一 (69) <令和2年4月> 経営学修士	中嶋 隆一 (69) <令和2年4月> 経営学修士	中嶋 隆一 (69) <令和2年4月> 経営学修士	中嶋 隆一 (69) <令和2年4月> 経営学修士
専	准教授	鎌波 美帆 (48) <令和2年4月> 修士(理学)							
専	教授	Adrian David Cheok (48) <令和2年4月> PH.D(豪州)	Adrian David Cheok (48) <令和2年4月> PH.D(豪州)	Adrian David Cheok (49) <令和2年4月> PH.D(豪州)	Adrian David Cheok (50) <令和2年4月> PH.D(豪州)	Adrian David Cheok (51) <令和2年4月> PH.D(豪州)	Adrian David Cheok (51) <令和2年4月> PH.D(豪州)	Adrian David Cheok (51) <令和2年4月> PH.D(豪州)	Adrian David Cheok (51) <令和2年4月> PH.D(豪州)
専	准教授	寺脇 由紀 (47) <令和2年4月> 修士(学際情報学)	寺脇 由紀 (47) <令和2年4月> 修士(学際情報学)	寺脇 由紀 (48) <令和2年4月> 修士(学際情報学)	寺脇 由紀 (49) <令和2年4月> 修士(学際情報学)	寺脇 由紀 (50) <令和2年4月> 修士(学際情報学)	寺脇 由紀 (50) <令和2年4月> 修士(学際情報学)	寺脇 由紀 (50) <令和2年4月> 修士(学際情報学)	寺脇 由紀 (50) <令和2年4月> 修士(学際情報学)
専	講師	山内 正人 (36) <令和2年4月> 博士(メディアデザイン学)	山内 正人 (36) <令和2年4月> 博士(メディアデザイン学)	山内 正人 (37) <令和2年4月> 博士(メディアデザイン学)	山内 正人 (38) <令和2年4月> 博士(メディアデザイン学)	山内 正人 (39) <令和2年4月> 博士(メディアデザイン学)	山内 正人 (39) <令和2年4月> 博士(メディアデザイン学)	山内 正人 (39) <令和2年4月> 博士(メディアデザイン学)	山内 正人 (39) <令和2年4月> 博士(メディアデザイン学)
実専	教授	江端 浩人 (57) <令和2年4月> Master of Business Administration (米国)	江端 浩人 (58) <令和2年4月> Master of Business Administration (米国)	江端 浩人 (59) <令和2年4月> Master of Business Administration (米国)	江端 浩人 (60) <令和2年4月> Master of Business Administration (米国)	江端 浩人 (61) <令和2年4月> Master of Business Administration (米国)	江端 浩人 (61) <令和2年4月> Master of Business Administration (米国)	江端 浩人 (61) <令和2年4月> Master of Business Administration (米国)	江端 浩人 (61) <令和2年4月> Master of Business Administration (米国)
実専	教授	久米 信行 (56) <令和2年4月> 経済学士	久米 信行 (56) <令和2年4月> 経済学士	久米 信行 (57) <令和2年4月> 経済学士	久米 信行 (58) <令和2年4月> 経済学士	久米 信行 (59) <令和2年4月> 経済学士	久米 信行 (59) <令和2年4月> 経済学士	久米 信行 (59) <令和2年4月> 経済学士	久米 信行 (59) <令和2年4月> 経済学士
実専	教授	平山 敏弘 (55) <令和2年4月> 経済学士	平山 敏弘 (55) <令和2年4月> 経済学士	平山 敏弘 (56) <令和2年4月> 経済学士	平山 敏弘 (57) <令和2年4月> 経済学士	平山 敏弘 (58) <令和2年4月> 経済学士	平山 敏弘 (58) <令和2年4月> 経済学士	平山 敏弘 (58) <令和2年4月> 経済学士	平山 敏弘 (58) <令和2年4月> 経済学士

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実(研)	教授	トシワ ユカ 富澤 豊 (56) <令和2年4月> 法学士	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ マーケティング基礎 マーケティング応用 インターンシップⅠ インターンシップⅡ 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	トシワ ユカ 富澤 豊 (56) <令和2年4月> 法学士	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ マーケティング基礎 マーケティング応用 インターンシップⅠ インターンシップⅡ 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	トシワ ユカ 富澤 豊 (57) <令和2年4月> 法学士	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ マーケティング基礎 マーケティング応用 インターンシップⅠ インターンシップⅡ 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	トシワ ユカ 富澤 豊 (58) <令和2年4月> 法学士	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ マーケティング基礎 マーケティング応用 インターンシップⅠ インターンシップⅡ 総合理論演習 総合実践演習
実(研)	教授	ミヨウ ハツ 三澤 一文 (64) <令和2年4月> Master of Science (米国)	マネジメント(経営学基礎) オペレーションズマネジメント 問題形成と問題解決 イノベーション特論 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	ミヨウ ハツ 三澤 一文 (64) <令和2年4月> Master of Science (米国)	マネジメント(経営学基礎) オペレーションズマネジメント 問題形成と問題解決 イノベーション特論 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	ミヨウ ハツ 三澤 一文 (65) <令和2年4月> Master of Science (米国)	マネジメント(経営学基礎) オペレーションズマネジメント 問題形成と問題解決 イノベーション特論 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	ミヨウ ハツ 三澤 一文 (66) <令和2年4月> Master of Science (米国)	マネジメント(経営学基礎) オペレーションズマネジメント 問題形成と問題解決 イノベーション特論 総合理論演習 総合実践演習
実(研)	教授	イ トシ 磯 俊樹 (58) <令和2年4月> 博士(工学)	数学基礎A 数学基礎C データサイエンス モバイルサービス概論 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	イ トシ 磯 俊樹 (58) <令和2年4月> 博士(工学)	数学基礎A 数学基礎C データサイエンス モバイルサービス概論 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	イ トシ 磯 俊樹 (59) <令和2年4月> 博士(工学)	数学基礎A 数学基礎C データサイエンス モバイルサービス概論 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	イ トシ 磯 俊樹 (60) <令和2年4月> 博士(工学)	数学基礎A 数学基礎C データサイエンス モバイルサービス概論 総合理論演習 総合実践演習
実(研)	教授	カキリ マサ 片桐 雅二 (58) <令和2年4月> 博士(情報科学)	データ構造と処理法 情報系数学応用B 情報系数学応用C データベース 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	カキリ マサ 片桐 雅二 (58) <令和2年4月> 博士(情報科学)	データ構造と処理法 情報系数学応用B 情報系数学応用C データベース 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	カキリ マサ 片桐 雅二 (59) <令和2年4月> 博士(情報科学)	データ構造と処理法 情報系数学応用B 情報系数学応用C データベース 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	カキリ マサ 片桐 雅二 (61) <令和2年4月> 博士(情報科学)	データ構造と処理法 情報系数学応用B 情報系数学応用C データベース 総合理論演習 総合実践演習
実(研)	教授	カチ 浩 加藤 直人 (57) <令和2年4月> 博士(情報科学)	スタディスキル ビックデータ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	カチ 浩 加藤 直人 (57) <令和2年4月> 博士(情報科学)	スタディスキル ビックデータ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	カチ 浩 加藤 直人 (58) <令和2年4月> 博士(情報科学)	スタディスキル ビックデータ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	カチ 浩 加藤 直人 (60) <令和2年4月> 博士(情報科学)	スタディスキル ビックデータ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 総合理論演習 総合実践演習
実(研)	教授(学部長)	カチ 浩 加藤 直人 (57) <令和2年4月> 博士(工学)	オペレーティングシステム演習 情報技術演習Ⅰ 情報技術演習Ⅱ IoT 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授(学部長)	カチ 浩 加藤 直人 (57) <令和2年4月> 博士(工学)	オペレーティングシステム演習 情報技術演習Ⅰ 情報技術演習Ⅱ IoT 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授(学部長)	カチ 浩 加藤 直人 (58) <令和2年4月> 博士(工学)	オペレーティングシステム演習 情報技術演習Ⅰ 情報技術演習Ⅱ IoT 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授(学部長)	カチ 浩 加藤 直人 (60) <令和2年4月> 博士(工学)	オペレーティングシステム演習 情報技術演習Ⅰ 情報技術演習Ⅱ IoT 総合理論演習 総合実践演習
実(研)	教授	カチ 浩 加藤 直人 (62) <令和2年4月> 博士(知識科学)	コンピュータとソフトウェア基礎 コンピュータアーキテクチャ スーパーコンピュータ 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	カチ 浩 加藤 直人 (62) <令和2年4月> 博士(知識科学)	コンピュータとソフトウェア基礎 コンピュータアーキテクチャ スーパーコンピュータ 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	カチ 浩 加藤 直人 (63) <令和2年4月> 博士(知識科学)	コンピュータとソフトウェア基礎 コンピュータアーキテクチャ スーパーコンピュータ 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	カチ 浩 加藤 直人 (64) <令和2年4月> 博士(知識科学)	コンピュータとソフトウェア基礎 コンピュータアーキテクチャ スーパーコンピュータ 総合理論演習 総合実践演習
実(研)	教授	イサキ ダンイ 石村 晋生 (61) <令和2年4月> 博士(教育学)	リサーチ入門 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	イサキ ダンイ 石村 晋生 (61) <令和2年4月> 博士(教育学)	リサーチ入門 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	イサキ ダンイ 石村 晋生 (62) <令和2年4月> 博士(教育学)	リサーチ入門 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	教授	イサキ ダンイ 石村 晋生 (64) <令和2年4月> 博士(教育学)	リサーチ入門 総合理論演習 総合実践演習
実(研)	准教授	カチ シン 川上 慎市郎 (47) <令和2年4月> 学士(経済学)	イノベーションプロジェクトⅠ イノベーションプロジェクトⅡ イノベーションプロジェクトⅢ イノベーションプロジェクトⅣ イノベーションプロジェクトⅤ イノベーションプロジェクトⅥ ビジネスフィールドリサーチⅠ ビジネスフィールドリサーチⅡ 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	准教授	カチ シン 川上 慎市郎 (47) <令和2年4月> 学士(経済学)	イノベーションプロジェクトⅠ イノベーションプロジェクトⅡ イノベーションプロジェクトⅢ イノベーションプロジェクトⅣ イノベーションプロジェクトⅤ イノベーションプロジェクトⅥ ビジネスフィールドリサーチⅠ ビジネスフィールドリサーチⅡ 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	准教授	カチ シン 川上 慎市郎 (48) <令和2年4月> 学士(経済学)	イノベーションプロジェクトⅠ イノベーションプロジェクトⅡ イノベーションプロジェクトⅢ イノベーションプロジェクトⅣ イノベーションプロジェクトⅤ イノベーションプロジェクトⅥ ビジネスフィールドリサーチⅠ ビジネスフィールドリサーチⅡ 総合理論演習 総合実践演習	実(研)	准教授	カチ シン 川上 慎市郎 (49) <令和2年4月> 学士(経済学)	イノベーションプロジェクトⅠ イノベーションプロジェクトⅡ イノベーションプロジェクトⅢ イノベーションプロジェクトⅣ イノベーションプロジェクトⅤ イノベーションプロジェクトⅥ ビジネスフィールドリサーチⅠ ビジネスフィールドリサーチⅡ 総合理論演習 総合実践演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実(研) 准教授	数学基礎B 情報系数学応用A ビックデータ AI Webシステム演習 総合理論演習 総合実践演習	7771 ケヒロ 落合 慶広 (54) <令和2年4月> 博士(工学)		実(研) 准教授	数学基礎B 情報系数学応用A ビックデータ AI Webシステム演習 総合理論演習 総合実践演習	7771 ケヒロ 落合 慶広 (54) <令和2年4月> 博士(工学)		実(研) 准教授	数学基礎B 情報系数学応用A ビックデータ AI Webシステム演習 総合理論演習 総合実践演習	7771 ケヒロ 落合 慶広 (56) <令和2年4月> 博士(工学)		実(研) 准教授	数学基礎B 情報系数学応用A ビックデータ AI Webシステム演習 総合理論演習 総合実践演習	7771 ケヒロ 落合 慶広 (57) <令和2年4月> 博士(工学)	
実(研) 准教授	ソフトウェア設計・構築 システム設計演習 システムインテグレーション 総合理論演習 総合実践演習	7771 ケイコ 桐谷 恵介 (62) <令和2年4月> 博士(学術)		実(研) 准教授	ソフトウェア設計・構築 システム設計演習 システムインテグレーション 総合理論演習 総合実践演習	7771 ケイコ 桐谷 恵介 (63) <令和2年4月> 博士(学術)		実(研) 准教授	ソフトウェア設計・構築 システム設計演習 システムインテグレーション 総合理論演習 総合実践演習	7771 ケイコ 桐谷 恵介 (64) <令和2年4月> 博士(学術)		実(研) 准教授	ソフトウェア設計・構築 システム設計演習 システムインテグレーション 総合理論演習 総合実践演習	7771 ケイコ 桐谷 恵介 (65) <令和2年4月> 博士(学術)	
実(研) 准教授	ビジネスフィールドリサーチⅠ ビジネスフィールドリサーチⅡ クラウド	7771 シゴオ 各務 茂雄 (49) <令和2年4月> 経営学修士(専門職)		実(研) 准教授	ビジネスフィールドリサーチⅠ ビジネスフィールドリサーチⅡ クラウド	7771 シゴオ 各務 茂雄 (49) <令和2年4月> 経営学修士(専門職)		実(研) 准教授	ビジネスフィールドリサーチⅠ ビジネスフィールドリサーチⅡ クラウド	7771 シゴオ 各務 茂雄 (51) <令和2年4月> 経営学修士(専門職)		実(研) 准教授	ビジネスフィールドリサーチⅠ ビジネスフィールドリサーチⅡ クラウド	7771 シゴオ 各務 茂雄 (52) <令和2年4月> 経営学修士(専門職)	
実(研) 准教授	法務リテラシーⅠ 法務リテラシーⅡ	7771 7933 境 真良 (51) <令和2年4月> 学士(法学)		実(研) 准教授	法務リテラシーⅠ 法務リテラシーⅡ	7771 7933 境 真良 (51) <令和2年4月> 学士(法学)		実(研) 准教授	法務リテラシーⅠ 法務リテラシーⅡ	7771 7933 境 真良 (52) <令和2年4月> 学士(法学)		実(研) 准教授	法務リテラシーⅠ 法務リテラシーⅡ	7771 7933 境 真良 (53) <令和2年4月> 学士(法学)	
兼任 講師	組織行動論 人的資源管理論	7771 7771 青田 努 (44) <令和3年4月> 経営管理修士(専門職)		兼任 講師	組織行動論 人的資源管理論	7771 7771 青田 努 (44) <令和3年4月> 経営管理修士(専門職)		兼任 講師	組織行動論 人的資源管理論	7771 7771 青田 努 (45) <令和3年4月> 経営管理修士(専門職)		兼任 講師	組織行動論 人的資源管理論	7771 7771 青田 努 (46) <令和3年4月> 経営管理修士(専門職)	
兼任 講師	多文化理解 日本文化 グローバルビジネスにおける ディスカッション・ディベート	7771 7771 市川 ヴィヴェカ (33) <令和3年4月> 学士(保育児童学)		兼任 講師	多文化理解 日本文化 グローバルビジネスにおける ディスカッション・ディベート	7771 7771 市川 ヴィヴェカ (33) <令和3年4月> 学士(保育児童学)		兼任 講師	多文化理解 日本文化 グローバルビジネスにおける ディスカッション・ディベート	7771 7771 市川 ヴィヴェカ (34) <令和4年4月> 学士(保育児童学)		兼任 講師	多文化理解 日本文化 グローバルビジネスにおける ディスカッション・ディベート	7771 7771 市川 ヴィヴェカ (34) <令和4年4月> 学士(保育児童学)	
兼任 講師	国際情勢論 国際開発論	7771 7771 上野 拓朗 (64) <令和4年4月> 経営学修士・経済学修士		兼任 講師	国際情勢論 国際開発論	7771 7771 上野 拓朗 (64) <令和4年4月> 経営学修士・経済学修士		兼任 講師	国際情勢論 国際開発論	7771 7771 上野 拓朗 (65) <令和4年4月> 経営学修士・経済学修士		兼任 講師	国際情勢論 国際開発論	7771 7771 上野 拓朗 (66) <令和5年4月> 経営学修士・経済学修士	
兼任 講師	先端グローバル社会 デザインと経営 農業・林業・漁業における国際化	7771 7771 小林 久美子 (59) <令和3年4月> デザインマネジメント修士 (専門職)		兼任 講師	先端グローバル社会 デザインと経営 農業・林業・漁業における国際化	7771 7771 小林 久美子 (59) <令和3年4月> デザインマネジメント修士 (専門職)		兼任 講師	先端グローバル社会 デザインと経営 農業・林業・漁業における国際化	7771 7771 小林 久美子 (60) <令和3年4月> デザインマネジメント修士 (専門職)		兼任 講師	先端グローバル社会 デザインと経営 農業・林業・漁業における国際化	7771 7771 小林 久美子 (61) <令和3年4月> デザインマネジメント修士 (専門職)	
兼任 講師	職業倫理	7771 7771 小林 美紀 (59) <令和3年4月> 学士(人間関係学)		兼任 講師	職業倫理	7771 7771 小林 美紀 (59) <令和3年4月> 学士(人間関係学)		兼任 講師	職業倫理	7771 7771 小林 美紀 (60) <令和3年4月> 学士(人間関係学)		兼任 講師	職業倫理	7771 7771 小林 美紀 (61) <令和3年4月> 学士(人間関係学)	
兼任 講師	製造業における国際化 グローバルビジネスにおける プレゼンテーション ファイナンス業における国際化 グローバルビジネスにおける ネゴシエーション	7771 7771 佐伯 玲奈 (31) <令和4年4月> MA in Regional Studies (米圏)		兼任 講師	製造業における国際化 グローバルビジネスにおける プレゼンテーション ファイナンス業における国際化 グローバルビジネスにおける ネゴシエーション	7771 7771 佐伯 玲奈 (31) <令和4年4月> MA in Regional Studies (米圏)		兼任 講師	製造業における国際化 グローバルビジネスにおける プレゼンテーション ファイナンス業における国際化 グローバルビジネスにおける ネゴシエーション	7771 7771 佐伯 玲奈 (32) <令和3年4月> MA in Regional Studies (米圏)		兼任 講師	製造業における国際化 グローバルビジネスにおける プレゼンテーション ファイナンス業における国際化 グローバルビジネスにおける ネゴシエーション	7771 7771 佐伯 玲奈 (33) <令和3年4月> MA in Regional Studies (米圏)	
兼任 講師	サービス業における国際化 国際経営と商習慣	7771 7771 嶋田 崇孝 (45) <令和5年4月> 修士(経営学)		兼任 講師	サービス業における国際化 国際経営と商習慣	7771 7771 嶋田 崇孝 (45) <令和5年4月> 修士(経営学)		兼任 講師	サービス業における国際化 国際経営と商習慣	7771 7771 嶋田 崇孝 (46) <令和5年4月> 修士(経営学)		兼任 講師	サービス業における国際化 国際経営と商習慣	7771 7771 嶋田 崇孝 (47) <令和5年4月> 修士(経営学)	
兼任 講師	コーポレートファイナンス 財務会計・会計処理	7771 7771 辻 貴之 (46) <令和4年4月> 経営管理修士(専門職)		兼任 講師	コーポレートファイナンス 財務会計・会計処理	7771 7771 辻 貴之 (46) <令和4年4月> 経営管理修士(専門職)		兼任 講師	コーポレートファイナンス 財務会計・会計処理	7771 7771 辻 貴之 (47) <令和4年4月> 経営管理修士(専門職)		兼任 講師	コーポレートファイナンス 財務会計・会計処理	7771 7771 辻 貴之 (48) <令和4年4月> 経営管理修士(専門職)	
兼任 講師	ビジネスゲームによる経営意思決定	7771 7771 寺裏 誠司 (56) <令和4年4月> 農学士		兼任 講師	ビジネスゲームによる経営意思決定	7771 7771 寺裏 誠司 (56) <令和4年4月> 農学士		兼任 講師	ビジネスゲームによる経営意思決定	7771 7771 寺裏 誠司 (57) <令和4年4月> 農学士		兼任 講師	ビジネスゲームによる経営意思決定	7771 7771 寺裏 誠司 (57) <令和4年4月> 農学士	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
兼任	講師	かみ 真鈴 (31) <令和3年4月> 博士(メディアデザイン学)	兼任	講師	かみ 真鈴 (31) <令和3年4月> 博士(メディアデザイン学)	兼任	講師	かみ 真鈴 (32) <令和4年4月> 博士(メディアデザイン学)			
	比較宗教論 国際メディア論			比較宗教論 国際メディア論			国際メディア論				
兼任	講師	ふい あり 藤井 あけみ (57) <令和2年4月> Bachelor of Arts (米園)									
	ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ ビジネス英語実習Ⅳ										
兼任	講師	ふみ 志保 (38) <令和3年4月> 修士(経営管理学)	兼任	講師	ふみ 志保 (38) <令和3年4月> 修士(経営管理学)	兼任	講師	ふみ 志保 (39) <令和4年4月> 修士(経営管理学)	兼任	講師	ふみ 志保 (40) <令和4年4月> 修士(経営管理学)
	ICTと人間 グローバル企業戦略論 クロスステックビジネスデザイン			ICTと人間 グローバル企業戦略論 クロスステックビジネスデザイン			グローバル企業戦略論 クロスステックビジネスデザイン			クロスステックビジネスデザイン	
兼任	講師	やと 淳司 (55) <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	講師	やと 淳司 (55) <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	講師	やと 淳司 (56) <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	講師	やと 淳司 (57) <令和3年4月> 博士(工学)
	科学史			科学史			科学史			科学史	
兼任	講師	しづみ 穂 (59) <令和2年4月> 修士(法学)	兼任	講師	しづみ 穂 (60) <令和2年4月> 修士(法学)	兼任	講師	しづみ 穂 (61) <令和2年4月> 修士(法学)	兼任	講師	しづみ 穂 (62) <令和2年4月> 修士(法学)
	英語コア・スキルズⅠ 英語コア・スキルズⅡ			英語コア・スキルズⅠ 英語コア・スキルズⅡ			英語コア・スキルズⅠ 英語コア・スキルズⅡ			英語コア・スキルズⅠ 英語コア・スキルズⅡ	
	ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ ビジネス英語実習Ⅳ			ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ ビジネス英語実習Ⅳ			ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ ビジネス英語実習Ⅳ			ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ ビジネス英語実習Ⅳ	
兼任	講師	あけみ 穂 (40) <令和2年4月> Bachelor of Arts in Sociology(米園)	兼任	講師	あけみ 穂 (41) <令和2年4月> Bachelor of Arts in Sociology(米園)	兼任	講師	あけみ 穂 (42) <令和2年4月> Bachelor of Arts in Sociology(米園)			
	ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ ビジネス英語実習Ⅳ			ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ ビジネス英語実習Ⅳ			ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ 英語コア・スキルズⅠ 英語コア・スキルズⅡ			ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ ビジネス英語実習Ⅳ 国際情勢論	
兼任	講師	あけみ 穂 (64) <令和2年4月> 外国文化学士	兼任	講師	あけみ 穂 (65) <令和2年4月> 外国文化学士	兼任	講師	あけみ 穂 (66) <令和2年4月> 外国文化学士	兼任	講師	あけみ 穂 (67) <令和2年4月> 外国文化学士
	ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ ビジネス英語実習Ⅳ			ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ ビジネス英語実習Ⅳ			ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ ビジネス英語実習Ⅳ			ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ	
兼任	講師	かみ 真鈴 (70) <令和3年4月> Master of business administration(米園)	兼任	講師	かみ 真鈴 (71) <令和3年4月> Master of business administration(米園)						
	ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ			ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ							
兼任	講師	あけみ 穂 (58) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	あけみ 穂 (59) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	あけみ 穂 (60) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	あけみ 穂 (61) <令和3年4月> 文学士
	マーケティング基礎			マーケティング基礎			マーケティング基礎			マーケティング基礎	
兼任	講師	あけみ 穂 (58) <令和3年4月> 経営学修士	兼任	講師	あけみ 穂 (59) <令和3年4月> 経営学修士						
	プログラミングⅠ プログラミングⅡ			プログラミングⅠ プログラミングⅡ							
兼任	講師	あけみ 穂 (48) <令和3年4月> 修士(理工学)	兼任	講師	あけみ 穂 (49) <令和3年4月> 修士(理工学)						
	プログラミングⅠ プログラミングⅡ			プログラミングⅠ プログラミングⅡ							
兼任	講師	あけみ 穂 (50) <令和3年4月> 博士(学術)	兼任	講師	あけみ 穂 (51) <令和3年4月> 博士(学術)						
	職業倫理			職業倫理							
兼任	講師	あけみ 穂 (39) <令和3年4月> 法務博士(専門職)	兼任	講師	あけみ 穂 (40) <令和3年4月> 法務博士(専門職)	兼任	講師	あけみ 穂 (41) <令和3年4月> 法務博士(専門職)	兼任	講師	あけみ 穂 (42) <令和3年4月> 法務博士(専門職)
	職業倫理			職業倫理			職業倫理			職業倫理	
兼任	講師	あけみ 穂 (38) <令和3年4月> 修士(法学)	兼任	講師	あけみ 穂 (39) <令和3年4月> 修士(法学)	兼任	講師	あけみ 穂 (40) <令和3年4月> 修士(法学)	兼任	講師	あけみ 穂 (41) <令和3年4月> 修士(法学)
	職業倫理			職業倫理			職業倫理			職業倫理	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
			兼任	講師	フジイ ショウヘイ 藤井 修平 (34) <令和3年4月> 博士(文学)		兼任	講師	フジイ ショウヘイ 藤井 修平 (35) <令和3年4月> 博士(文学)		兼任	講師	フジイ ショウヘイ 藤井 修平 (36) <令和3年4月> 博士(文学)	比較宗教学論 国際情勢論
			兼任	講師	ハマツ ミチヲ 浜地 道雄 (78) <令和3年4月> 経済学士									
			兼任	講師	サトウ ヒロ 佐藤 千尋 (35) <令和3年4月> 博士(メディアデザイン学)		兼任	講師	サトウ ヒロ 佐藤 千尋 (36) <令和3年4月> 博士(メディアデザイン学)		兼任	講師	サトウ ヒロ 佐藤 千尋 (37) <令和3年4月> 博士(メディアデザイン学)	ICTと人間
			兼任	講師	フジイ ショウヘイ 藤井 修平 (28) <令和3年4月> 修士(メディアデザイン学)		兼任	講師	フジイ ショウヘイ 藤井 修平 (29) <令和3年4月> 修士(メディアデザイン学)		兼任	講師	フジイ ショウヘイ 藤井 修平 (30) <令和3年4月> 修士(メディアデザイン学)	ICTと人間
							兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (47) <令和4年12月> 修士(公共政策学)		兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (48) <令和4年12月> 修士(公共政策学)	製造業における国際化 サービス業における国際化
							兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (41) <令和4年4月> 学士(経営情報学)		兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (42) <令和4年4月> 学士(経営情報学)	イノベーションプロジェクトVI
							兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (54) <令和4年4月> 政治学士		兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (55) <令和4年4月> 政治学士	イノベーションプロジェクトVII
							兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (40) <令和4年12月> 経営管理修士(専門職)		兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (41) <令和4年12月> 経営管理修士(専門職)	ビジネスゲームによる経営意思決定 クラウド
							兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (34) <令和4年4月> 学士(経営学)					
							兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (36) <令和4年4月> 修士(教育学)		兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (36) <令和4年4月> 修士(教育学)	英語コア・スキルズI 英語コア・スキルズII
							兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (45) <令和4年4月> 高等学校卒		兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (46) <令和4年4月> 高等学校卒	イノベーションプロジェクトIII イノベーションプロジェクトIV
							兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (48) <令和4年4月> 修士(公共政策)					
							兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (46) <令和4年4月> 学士(文学)		兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (47) <令和4年4月> 学士(文学)	ソフトウェア設計・構築 システム設計演習
							兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (34) <令和4年4月> 高等学校卒		兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (35) <令和4年4月> 高等学校卒	イノベーションプロジェクトIII イノベーションプロジェクトIV
							兼任	講師	イノウエ 道大 伊藤 道大 (29) <令和4年4月> 博士(理学)					プログラミングI プログラミングII

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
兼任	講師	アノウリ ヲ 安藤 優 (29) <令和5年4月> 学士(心理学)											キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ	
兼任	講師	オウチ マコ 大島 真貴 (46) <令和5年4月> 情報システム学修士(専門職)											プログラミングⅠ プログラミングⅡ	
兼任	講師	オウチ マコ 坂下 直史 (54) <令和5年4月> Master of Business Administration / Master of Finance (米国)											ファイナンス業における国際化 国際経営と商習慣	
兼任	講師	ウチノ ユキ 新谷 幸弘 (50) <令和5年4月> Master of Business Administration (米国)											デザインと経営	
兼任	講師	ウチノ ユキ 進藤 弘晴 (37) <令和5年4月> Maestría en Gestión de Seguridad, Orlas y Emergencias (スペイン)											国際開発論	
兼任	講師	ウチノ ユキ 曾根原 幹人 (49) <令和5年4月> 学士(経済学)											新興市場における事業開発	
兼任	講師	ウチノ ユキ 曾和 利光 (44) <令和5年4月> 学士(教育学)											キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ	
兼任	講師	ニノ ノボ 丹羽 典子 (43) <令和5年4月> 修士(工学)											イノベーションプロジェクトⅢ イノベーションプロジェクトⅣ	
兼任	講師	ノボ ユキ 備田 豊典 (60) <令和5年4月> 情報システム学修士(専門職)											データベース	
兼任	講師	ノボ ユキ 榎本 博 (64) <令和5年4月> 博士(理学)											クロスセクタービジネスデザイン	
兼任	講師	ノボ ユキ 坂山 聖帆 (29) <令和5年4月> 学士(経営学)											イノベーションプロジェクトⅠ イノベーションプロジェクトⅡ	
兼任	講師	ヒラノ マコ 平野 麻紀子 (47) <令和5年4月> 学士(文学)											ビジネス英語実習Ⅰ ビジネス英語実習Ⅱ ビジネス英語実習Ⅲ ビジネス英語実習Ⅳ	
兼任	講師	ミヅノ トシ 宮本 道人 (33) <令和5年4月> 博士(理学)											日本文化	
兼任	講師	ヤマモト マコ 山本 名美 (55) <令和5年4月> 経営学修士(専門職)											ビジネスフィールドリサーチⅠ ビジネスフィールドリサーチⅡ	
兼任	講師	ヨシダ マコ 吉田 和広 (57) <令和5年4月> 修士(政策学)											国際経営と商習慣	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼担、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・令和2年4月 石村源生 教授就任。令和元年12月教員審査済み。
- ・令和2年4月 佐藤紀行 講師就任。令和元年12月教員審査済み。
- ・令和元年11月 難波美帆 准教授が家庭の事情により就任辞退。
- ・令和元年11月 井澤哲也 講師が家庭の事情により就任辞退。
- ・令和元年11月 藤井あけみ 兼任講師が家庭の事情により就任辞退。
- ・令和2年4月 柿崎理 兼任講師が就任し、「英語コア・スキルズⅠ・Ⅱ」を担当。
- ・令和2年4月 倉兼利林 兼任講師が就任し、「ビジネス英語実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を担当。
- ・令和2年4月 栗田昭宏 兼任講師が就任し、「ビジネス英語実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を担当。

【令和3年度】

- ・令和3年度より HUG JOSE 講師の担当授業科目に「英語アカデミックリテラシー」を追加。令和2年12月教員審査済み。
- ・市川ヴィヴェカ 兼任講師が就任時期を延期したため、就任時期を令和4年4月に変更し、担当授業科目から「多文化理解」を削除。
- ・小林美紀 兼任講師の担当授業科目を「職業倫理」から「多文化理解」に変更。
- ・佐伯玲奈 兼任講師の担当授業科目に「多文化理解」を追加し、就任時期を令和4年4月から令和3年4月に変更。
- ・中村真鈴 兼任講師が就任時期を延期したため、就任時期を令和4年4月に変更し、担当授業科目から「比較宗教学」を削除。
- ・藤森志保 兼任講師が就任時期を延期したため、就任時期を令和4年4月に変更し、担当授業科目から「ICTと人間」を削除。
- ・柿崎理 兼任講師の担当授業科目に「ビジネス英語実習Ⅲ・Ⅳ」を追加。
- ・倉兼利林 兼任講師の担当授業科目に「英語コア・スキルズⅠ・Ⅱ」を追加。
- ・令和3年4月 Calvin Hokama 兼任講師が就任し、「ビジネス英語実習Ⅰ・Ⅱ」を担当。
- ・令和3年4月 織戸恒男 兼任講師が就任し、「マーケティング基礎」を担当。
- ・令和3年4月 児玉靖司 兼任講師が就任し、「プログラミングⅠ・Ⅱ」を担当。
- ・令和3年4月 飯塚康至 兼任講師が就任し、「プログラミングⅠ・Ⅱ」を担当。
- ・令和3年4月 望月由紀 兼任講師が就任し、「職業倫理」を担当。
- ・令和3年4月 島津実伸 兼任講師が就任し、「職業倫理」を担当。
- ・令和3年4月 中井良太 兼任講師が就任し、「職業倫理」を担当。
- ・令和3年4月 藤井修平 兼任講師が就任し、「比較宗教学」を担当。
- ・令和3年4月 浜地道雄 兼任講師が就任し、「多文化理解」を担当。
- ・令和3年4月 佐藤干尋 兼任講師が就任し、「ICTと人間」を担当。
- ・令和3年4月 有馬俊 兼任講師が就任し、「ICTと人間」を担当。

【令和4年度】

- ・令和3年12月 市川ヴィヴェカ 兼任講師が家庭の事情により就任辞退。
- ・市川ヴィヴェカ 兼任講師の就任辞退に伴う兼任教員補充のため、令和4年4月に 谷川嘉浩 兼任講師が就任し、「日本文化」を担当。
- ・市川ヴィヴェカ 兼任講師の就任辞退に伴う兼任教員補充のため、令和4年4月に 水野稚 兼任講師が就任し、「グローバルビジネスにおけるディスカッション・ディベート」を担当。
- ・令和3年12月 上野拓朗 兼任講師が就任時期を延期したため、就任時期を令和5年4月に変更し、担当授業科目から「国際情勢論」を削除。
- ・上野拓朗 兼任講師の就任時期延期に伴い、藤井修平 兼任講師の担当授業科目に「国際情勢論」を追加。
- ・上野拓朗 兼任講師の就任時期延期に伴い、柿崎理 兼任講師の担当授業科目に「国際情勢論」を追加。
- ・令和4年6月 佐伯玲奈 兼任講師が本務先業務の都合により「多文化理解」・「製造業における国際化」の担当を辞任。
- ・佐伯玲奈 兼任講師の後任として、令和4年10月に VARDAMAN MAYA 兼任講師が就任し、「多文化理解」を担当。
- ・佐伯玲奈 兼任講師の後任として、令和4年12月に 伊藤道大 兼任講師が就任し、「製造業における国際化」を担当。
- ・令和3年12月 寺裏誠司 兼任講師が本務先業務の都合により就任辞退。
- ・寺裏誠司 兼任講師の就任辞退に伴う兼任教員補充のため、令和4年4月に 坂本松昭 兼任講師が就任し、「ビジネスゲームによる経営意思決定」を担当。
- ・令和4年6月 中村真鈴 兼任講師が本務先業務の都合により辞任。
- ・中村真鈴 兼任講師の辞任に伴う兼任教員補充のため、令和4年12月に 堂満一成 兼任講師が就任し、「国際メディア論」を担当。
- ・令和4年6月 藤森志保 兼任講師が本務先業務の都合により「グローバル企業戦略論」の担当を辞任。
- ・藤森志保 兼任講師の後任として、令和4年12月に 平澤賢嗣 兼任講師が就任し、「グローバル企業戦略論」を担当。
- ・令和3年12月 倉兼利林 兼任講師が家庭の事情により辞任。
- ・倉兼利林 兼任講師の辞任に伴う兼任教員補充のため、令和4年4月に 後藤亮 兼任講師が就任し、「英語コア・スキルズⅠ・Ⅱ」を担当。
- ・倉兼利林 兼任講師の辞任に伴う兼任教員補充のため、令和4年4月に 木村優美 兼任講師が就任し、「ビジネス英語実習Ⅲ」を担当。
- ・令和3年12月 Calvin Hokama 兼任講師が家庭の事情により辞任。
- ・Calvin Hokama 兼任講師の辞任に伴い、柿崎理 兼任講師の担当授業科目に「ビジネス英語実習Ⅰ・Ⅱ」を追加。
- ・令和3年6月 栗田昭宏 兼任講師が本務先業務の都合により「ビジネス英語実習Ⅳ」の担当を辞任。
- ・栗田昭宏 兼任講師の後任として、令和4年10月に SCHELLIN KEITH 兼任講師が就任し、「ビジネス英語実習Ⅳ」を担当。
- ・令和3年12月 児玉靖司 兼任講師が一身上の都合により辞任。
- ・児玉靖司 兼任講師の辞任に伴う兼任教員補充のため、令和4年4月に 毛風雨 兼任講師が就任し、「プログラミングⅠ・Ⅱ」を担当。
- ・令和3年12月 飯塚康至 兼任講師が本務先業務の都合により辞任。
- ・飯塚康至 兼任講師の辞任に伴う兼任教員補充のため、令和4年4月に 多賀祥平 兼任講師が就任し、「プログラミングⅠ・Ⅱ」を担当。
- ・令和3年12月 望月由紀 兼任講師が本務先業務の都合により辞任。
- ・令和4年6月 浜地道雄 兼任講師が一身上の都合により辞任。
- ・浜地道雄 兼任講師の辞任に伴う兼任教員補充のため、令和4年10月に 宮谷敦美 兼任講師が就任し、「多文化理解」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年4月に 岩本恵 兼任講師が就任し、「イノベーションプロジェクトⅠ・Ⅳ」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年4月に 加藤里香 兼任講師が就任し、「イノベーションプロジェクトⅤ」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年12月に 菊地祥由 兼任講師が就任し、「クラウド」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年4月に 齋藤祐士 兼任講師が就任し、「イノベーションプロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅴ」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年4月に 白井貴子 兼任講師が就任し、「ソフトウェア設計・構築」・「システム設計演習」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年4月に 高橋直秀 兼任講師が就任し、「イノベーションプロジェクトⅢ・Ⅴ」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年4月に 田口光 兼任講師が就任し、「組織行動論」・「人的資源管理論」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年4月に 田中大士 兼任講師が就任し、「イノベーションプロジェクトⅠ・Ⅴ」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年4月に 坪倉大輔 兼任講師が就任し、「イノベーションプロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年4月に 得上竜一 兼任講師が就任し、「イノベーションプロジェクトⅢ・Ⅳ・Ⅴ」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年4月に 徳本昌大 兼任講師が就任し、「ビジネスフィールドリサーチⅠ・Ⅱ」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年10月に 三宅志穂 兼任講師が就任し、「イノベーションプロジェクトⅣ」を担当。
- ・開講クラス数増加に伴う指導体制強化のため、令和4年4月に 山岡茂治 兼任講師が就任し、「ソフトウェアプロセスと品質」を担当。

【令和5年度】

- ・令和4年12月 上野拓朗 兼任講師が本務先業務の都合により就任辞退。
- ・上野拓朗 兼任講師の就任辞退に伴う兼任教員補充のため、令和5年4月に 進藤弘騎 兼任講師が就任し、「国際開発論」を担当。
- ・令和4年12月 小林久美子 兼任講師が本務先業務の都合により「デザインと経営」の担当を辞任。
- ・小林久美子 兼任講師の後任として、令和5年4月に 新谷幸弘 兼任講師が就任し、「デザインと経営」を担当。
- ・令和4年12月 佐伯玲奈 兼任講師が本務先業務の都合により辞任。「グローバルビジネスにおけるネゴシエーション」については後任未定であるが、令和5年10月から兼任講師を採用予定で募集中。
- ・令和4年12月 嶋田崇孝 兼任講師が本務先業務の都合により就任辞退。
- ・佐伯玲奈 兼任講師の辞任に伴い、HUG JOSE 講師の担当授業科目に「グローバルビジネスにおけるプレゼンテーション」を追加。令和4年12月教員審査済み。
- ・佐伯玲奈 兼任講師・嶋田崇孝 兼任講師の辞任に伴い、令和5年4月に 坂下直史 兼任講師が就任し、「ファイナンス業における国際化」・「国際経営と商習慣」を担当。
- ・嶋田崇孝 兼任講師の辞任に伴い、令和5年4月に 吉田和広 兼任講師が就任し、「国際経営と商習慣」を担当。
- ・嶋田崇孝 兼任講師の辞任に伴い、伊藤道大 兼任講師の担当授業科目に「サービスマネジメントにおける国際化」を追加。
- ・令和4年12月 藤森志保 兼任講師が本務先業務の都合により辞任。
- ・藤森志保 兼任講師の辞任に伴い、令和5年4月に 幡鎌博 兼任講師が就任し、「クロスステックビジネスデザイン」を担当。
- ・令和4年12月 木村優美 兼任講師が一身上の都合により辞任。
- ・令和4年12月 栗田昭宏 兼任講師が一身上の都合により「ビジネス英語実習Ⅲ」の担当を辞任。
- ・木村優美 兼任講師の辞任及び 栗田昭宏 兼任講師の担当授業科目変更並びに指導体制強化のため、令和5年4月に 平野麻紀子 兼任講師が就任し、「ビジネス英語実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を担当。
- ・令和4年12月 坂本松昭 兼任講師が本務先業務の都合により辞任。
- ・坂本松昭 兼任講師の辞任に伴い、菊地祥由 兼任講師の担当授業科目に「ビジネスゲームによる経営意思決定」を追加。
- ・令和4年12月 多賀祥平 兼任講師が本務先業務の都合により辞任。
- ・多賀祥平 兼任講師の就任辞退に伴う兼任教員補充のため、令和5年4月に 大島真言 兼任講師が就任し、「プログラミングⅠ・Ⅱ」を担当。
- ・令和4年9月 山岡茂治 兼任講師が契約期間満了により退任。
- ・指導体制強化のため、令和5年4月に 安藤健 兼任講師が就任し、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を担当。
- ・指導体制強化のため、令和5年4月に 曾根原幹人 兼任講師が就任し、「新興市場における事業開発」を担当。
- ・指導体制強化のため、令和5年4月に 曾和利光 兼任講師が就任し、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を担当。
- ・指導体制強化のため、令和5年4月に 信田勝美 兼任講師が就任し、「データベース」を担当。
- ・指導体制強化のため、令和5年4月に 宮本道人 兼任講師が就任し、「日本文化」を担当。
- ・指導体制強化のため、令和5年4月に 山本名美 兼任講師が就任し、「ビジネスフィールドリサーチⅠ・Ⅱ」を担当。
- ・令和4年12月 田中大士 兼任講師が本務先業務の都合により辞任。
- ・令和4年12月 坪倉大輔 兼任講師が本務先業務の都合により辞任。
- ・田中大士 兼任講師・坪倉大輔 兼任講師の辞任に伴う「イノベーションプロジェクトⅠ～Ⅴ」の指導体制の見直し及び「イノベーションプロジェクトⅥ」の指導体制強化のため、以下のとおり兼任教員を補充するとともに、担当授業科目を変更。
 - ・岩本恵 兼任講師の担当授業科目を「イノベーションプロジェクトⅠ・Ⅳ」から「イノベーションプロジェクトⅥ」に変更。
 - ・加藤里香 兼任講師の担当授業科目を「イノベーションプロジェクトⅤ」から「イノベーションプロジェクトⅥ」に変更。
 - ・齋藤祐士 兼任講師の担当授業科目を「イノベーションプロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅴ」から「イノベーションプロジェクトⅢ・Ⅵ」に変更。
 - ・高橋直秀 兼任講師の担当授業科目を「イノベーションプロジェクトⅤ」から「イノベーションプロジェクトⅣ」に変更。
 - ・得上竜一 兼任講師の担当授業科目から「イノベーションプロジェクトⅢ・Ⅳ」を削除。
 - ・三宅志穂 兼任講師の担当授業科目を「イノベーションプロジェクトⅣ」から「イノベーションプロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅴ」に変更。
 - ・令和5年4月に 二羽典子 兼任講師が就任し、「イノベーションプロジェクトⅢ・Ⅳ」を担当。
 - ・令和5年4月に 坡山里帆 兼任講師が就任し、「イノベーションプロジェクトⅠ・Ⅱ」を担当。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要な研究業績を有する実務家教員数
26	13	11	6
名	名	名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一(2)及び第四十二条の六、専門職大学設置基準別表第一及び第三十六条、専門職短期大学設置基準別表第一及び第三十三条により算出される専任教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員等数【専門職大学等】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
15	7	6	0	28	0	16	6	6	0	28	0
(16)	(6)	(6)	(0)	(28)	(0)						
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数			専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数		
6	9	11	2			5	9	12	2		
(5)	(9)	(12)	(2)								
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
16	6	6	0	28	0	16	6	6	0	28	0
[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数			専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数		
5	9	12	2			5	9	12	2		
[Δ1]	[0]	[1]	[0]			[Δ1]	[0]	[1]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)
 ・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
 なお、みなし専任教員(実み)がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。
 ・ 「みなし専任教員数」には、「実専」に計上している実務家教員数のうち、みなし専任教員の教員数を計上してください。

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B)の教員のうち、定年を延長して採用している教員数)	完成年度時(上記(C)の教員のうち、定年を延長して採用する教員数)
65	3	4
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{28}{28} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{3}{28} = \boxed{10.71} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
							①	②	③	備考			
1	准教授	難波 美帆	R1.11	必修	リサーチ入門	①	R1.11家庭の事情のため就任辞退（2）						
				必修	総合理論演習	①							
				必修	総合実践演習	①							
2	講師	井澤 哲也	R1.11	選択	オペレーティングシステム	①	R1.11家庭の事情のため就任辞退（2）						
				選択	クラウド	①							
				必修	インターンシップI	①							
				必修	インターンシップII	①							
				選択	インタラクティブ・システムデザイン	①							
合計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
2	人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	8	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---------------------------------|
| ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 |
| ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 |
| ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
							①	②	③	備考			
合計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---------------------------------|
| ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 |
| ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 |
| ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）						後任補充状況の集計（E）+（G）							
辞任等した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
2	人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	8	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{28} = 7.14 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

2名の専任教員就任予定者が家庭の事情により就任辞退したことは遺憾であったが、迅速に専任教員の後任補充者を採用することができ、令和元年12月に教員審査も受審し、問題なく対応ができたと考えている。今後、専任教員の辞任が生じない対応策として、すべての専任教員に対して、学長・副学長・事務局長が個人面談を行い、各教員の本学におけるミッションの策定を実施し、短・中期的な目標を明確化するとともに、教授会には全専任教員が参加し、活発な意見交換ができる場として活用する等働きやすい環境を用意している。

学生に対しては、ホームページ上で専任教員の一覧、業績等を掲示しており、就任辞退した教員と遜色のない後任の専任教員が補充できていたため、特段の問題はないと考えている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和元年)</p>	<p>設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	<p>【認可】 遵守事項</p> <p>教職員が、設置の趣旨・目的等を共通で理解する必要があることから、2019年12月から2020年2月にかけて教員事前会議・研修を3回開催し、設置の趣旨・目的等の理解推進やそれらに沿った授業における教授法・学生支援の在り方等を学んだ。また、2020年3月には教職員全体会議を実施し、本法人理事長や学長が改めて方針等の説明を行い理解を深めた。また、教育水準を向上するため、正課授業開始前にプレ授業期間（2週間）を設定した。その後、学生満足度や振り返り等を参考に正課授業準備に取り組んだ。</p> <p>学生には、学生便覧に本学設置の経緯、教育理念、3つのポリシー等を記載し、新入生オリエンテーションにて説明した。また、新入生スタートプロジェクト（新入生研修）を開催し、大学・専門職大学の理解促進、養成する人材像になるための心構えやコミュニケーションスキル研修を実施した。 (4) (5)</p>	<p>履行済</p> <p>教育研究活動水準の一層の向上を図るため、全教員のミッションとして産学連携、地域連携、大学連携等の教育研究プロジェクトを必須とし、現在各プロジェクト計画を策定中である。各年度末にはプロジェクト報告会も実施予定である。</p> <p>主に産学連携プロジェクト、地域連携プロジェクトに取り組んでいる。プロジェクト例は以下の通りである。 (産学連携) ・吉本興業、KADOKAWAとのゲーム開発プロジェクト ・BS11とのe-スポーツ大会の企画運営・放送プロジェクト ・ビズライトテクノロジーとのサニタイザー付きデジタルサイネージを活用した新規サービス開発プロジェクト (地域連携) ・近隣中学校での学習支援プロジェクト ・近隣小学校での運動会IT導入プロジェクト 上記は、本学地域連携センターにおいて管理し、教員の希望ヒアリング・配置、学生募集等を行い実施している。</p> <p>また、年に2回の教職員全体会議、年に3回の全教員対象FD研修、年間を通じた各教員同士の授業見学会の実施など、より一層の向上を図っていく計画である。 (4) (5)</p>
<p>認 可 時 (令和元年)</p>	<p>・以下の科目についての指摘に対応すること。</p> <p>(1)「オペレーティングシステム」の教育内容が、オペレーティングシステムの入門に留まっているため、科目名称を「オペレーティングシステム入門」や「オペレーティングシステムリテラシー」等に改めること。また、「オペレーティングシステム」の科目名称を改めることに伴い、「オペレーティングシステム演習」の科目名称の変更も適切に検討すること。</p>	<p>【認可】 遵守事項</p> <p>「オペレーティングシステム」については、「オペレーティングシステム入門」に科目名称を変更し、「オペレーティングシステム演習」については、授業内容が「オペレーティングシステム」応用編まで網羅している授業内容ではなく、演習内容を含むことから「オペレーティングシステム演習」という科目名称を変更しないこととした。</p> <p>令和2年12月学則変更届を提出済。 (4) (5)</p>	<p>履行済</p>

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和元年)</p>	<p>・以下の科目についての指摘に対応すること。</p> <p>(2)「マネジメント（経営学基礎）」について、授業時間数に対して教育内容がやや過密と考えられるため、学生の効果的な学修の観点から、本科目内容について、徹底した学修支援を行うこと。また、基礎から応用に向かう科目について体系的に留意した科目を設定すること。</p>	<p>【認可】 遵守事項</p> <p>「マネジメント（経営学基礎）」の学習支援については、学内のLMSを使用し、毎回課題を学生に与えて、理解度を把握するとともに、理解が不足している学生に対しては、担当教員がそれぞれの課題に意見を述べるとともに、各学生に助言を行っている。</p> <p>また、授業評価アンケートを学期中に2回実施し、学生の授業に対する満足度及び習熟度も測定し、学期中に担当教員にフィードバックした。</p> <p>学期末に実施した授業評価アンケートにおいては、授業の理解度・難易度・進め方に関する項目において、70%を超える履修者が前向きな回答をしており、十分な学修支援が行えていることを確認している。</p> <p>また、マネジメントの関連科目としては、1年次前期担当「マネジメント（経営学基礎）」、2年次前期担当「オペレーションズマネジメント」、2年次後期担当「問題形成と問題解決」を設定しており、当該3科目を同一の教員が担当することで、科目間の連続性に配慮するとともに、「問題形成と問題解決」については、履修推奨科目として、可能な限り多くの学生が履修するようガイダンス等で指導を行うことで、体系的な学修を担保している。(4) (5)</p>	<p>履行済</p>

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
設置計画履行状況 調査結果 (令和2年度)	同時に授業を行う学生数が40人を超える授業の実施については、専門職大学設置基準の趣旨を踏まえ、最小限とすること。 また、その運用に支障を来たさないよう、入学定員超過の改善に努めること。	<p>専門職大学設置基準に基づき40人以下での授業実施に向け、専任教員の授業担当コマ数を見直すとともに、兼任教員の増員を図り、開講クラス数を増加させた。これにより、令和4年度前期については、すべての開講科目において、40人以下で授業を実施している。(4)</p> <p>専門職大学設置基準に基づき40人以下での授業実施に向け、専任教員の授業担当コマ数を見直すとともに、兼任教員の増員を図り、開講クラス数を増加させた。これにより、令和4年度前期については全開講科目、令和4年度後期については以下2科目以外の開講科目において40人以下で授業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「多文化理解」履修者：79名 ●「国際メディア論」 <ul style="list-style-type: none"> ・クラス①履修者：58名 ・クラス②履修者：55名 <p>いずれの科目も当初授業担当予定であった兼任教員の辞任により、開講クラス数を縮減せざるを得なくなったことが、40人を超える授業実施の要因となったが、両科目とも以下のとおり学生の効果的な学修を促進する授業方法を取り入れることで、教育成果があがっていることを確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「多文化理解」 <p>多様な視点から物事を考え、多文化についての理解を促すため、グループディスカッションを積極的に取り入れた授業を実施。</p> <p>学期末に実施した授業改善アンケートにおける学修達成度に係る設問では、約91%の履修者が肯定的な回答をしており、単位修得率も73%（後期開講科目平均76%）と平均的な水準となっている。</p> ●「国際メディア論」 <p>講義科目となるが、学生の能動的な学修を促すため、クイズやグループワークを取り入れた授業を実施。</p> <p>学期末に実施した授業改善アンケートにおける学修達成度に係る設問では約97%、理解を促す授業手法の実施状況に係る設問では約98%の履修者が肯定的な回答をしており、単位修得率も96%（後期開講科目平均76%）と平均を上回る水準となっている。</p> <p>なお、令和5年度前期については、令和4年度と同等の開講クラス数を維持することで、すべての開講科目において、40人以下で授業を実施している。(5)</p>	<p>令和4年度後期及び次年度以降も現状の開講クラス数を維持し、40人以下での授業実施を確実に推進していく予定。</p> <p>あわせて、更なる開講クラス数の増加により教員負担が過大となり、教育の質の低下を招くことがないように、合格者の入学手続き率のデータを蓄積し、適正な入学定員管理を行っていく。(4)</p> <p>令和4年度後期に履修人数が40人を超えた2科目は、選択必修科目であることを踏まえ、令和5年度後期は当該科目が配置されている選択必修科目群における他科目の開講クラス数を調整し、学生の科目選択の幅を広げることで、1科目（クラス）に履修者が集中することを防ぎ、40人以下での授業実施を推進していく。また、次年度も各科目の開講クラス数を適切に設定し、40人以下での授業を継続的かつ確実に実施できる環境を整える予定。</p> <p>あわせて、開講クラス数の増加により教員負担が過大となり、教育の質の低下を招くことがないように、合格者の入学手続き率のデータを蓄積し、適正な入学定員管理を行っていく。(5)</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>①入学者選抜について 現行の大学入試センター試験については制度上、初年度の導入はできないが、開学2年目からは大学入学共通テストを導入する。</p> <p>②アドミッション・オフィス入試（定員50名） 面接型入試 ①書類審査 ②面接試験</p> <p>ワーク型入試 ①書類審査 ②グループワーク</p> <p>小論文型入試 ①書類審査 ②小論文</p> <p>③事務組織について イノベーションマネジメント局（事務局） マネジメントユニット アドミニストレーションユニット</p> <p>④「遠隔授業」等の実施について 未計画</p> <p>⑤授業科目の担当方法について 「多文化理解」：単独の教員がすべての回の授業を担当</p>	<p>開学2年目から導入を予定していたが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症に係る在学生対応への注力方針により、大学入学共通テストの準備体制が整備困難と判断した。そのため、令和5年度入学者選抜試験からの導入を見送ることとした。</p> <p>令和3年度入学者選抜試験から「大学入学者選抜実施要項」に基づき、入試種別の名称を「総合型選抜」に変更し、各試験種別において以下の学力評価方法を用いて入学者選抜試験を実施した。 ・面接型：面接・口頭試問 ・グループワーク型：グループワーク ・小論文型：小論文</p> <p>また、本学は「起業にチャレンジすること」を一つの目標に掲げ、プレゼンテーション能力の育成を重視していることから、上記に加え、総合型選抜においてプレゼンテーションを評価方法の一部に用いた「プレゼン型入試」を実施した。 令和5年度入学者選抜試験においても上記と同様に総合型選抜を実施している。</p> <p>イノベーションマネジメント局における業務効率の向上、重要業務の再検討を行った結果、定員充足に向けた専門部署の設置を検討し、令和2年度からアドミッション（入試広報）ユニットを組織した。 また、設置時の計画においてマネジメントユニット及びアドミニストレーションユニットで所管することとしていた他の業務についても再検討を行い、学生への支援体制の充実を目的に、令和3年度からマネジメントユニットに学生支援、教務、人事、キャリア支援の業務を、アドミニストレーションユニットに総務、経理等の業務を配分し、各業務が有機的かつ革新的に作用する組織に変更した。 令和4年度は、引き続き上記体制により業務を遂行しつつ、アドミニストレーションユニットの組織マネジメント機能を一層強化するとともに、マネジメントユニットが学修・学生生活支援関係の業務により注力できるよう業務分掌を再検討し、令和5年度より人事関係の業務をマネジメントユニットからアドミニストレーションユニットに移管することとした。 ※資料1「情報経営イノベーション専門職大学 組織図&機能図」参照</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、理事長・学長のリーダーシップの下、令和2年度は一部の科目を除き遠隔授業とした。 令和3年度も引き続き遠隔授業を実施するとともに、一部の科目において学生が遠隔にて受講するか、対面にて受講するかを選択することのできるハイフレックス授業を導入し、それに必要なテレビ会議システムを整備した。 令和4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に留意しつつ、大部分の科目を対面授業に移行し、遠隔授業は最小限に止めて実施した。 なお、遠隔授業の実施にあたっては、ガイダンスで学生に説明するとともに、ICT教育センター及び教務担当において学生・教員に対する技術的なサポートを行った。</p> <p>令和4年6月に「多文化理解」を担当予定であった兼任講師2名が辞任したため、令和4年度後期（10月開始）の開講に向け、新たに兼任講師を2名採用したことに伴い、新任兼任講師の授業準備に係る負担を軽減し、より教育効果が高い授業内容とできるようオムニバス方式で授業を担当することとした。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD・SD委員会を設置済。(※資料2「情報経営イノベーション専門職大学FD・SD委員会規程」参照)

b 委員会の開催状況 (教員の参加状況含む)

月一回程度 (令和5年5月8日開催 第1回FD・SD委員会は11名出席)

c 委員会の審議事項等

- ・FD・SD活動の企画立案に関する事
- ・FD・SD活動の実施計画立案に関する事
- ・FD・SD活動の情報収集とその提供に関する事
- ・その他、FD・SD活動に関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・学生による授業改善アンケート
- ・教員相互の授業見学
- ・FD研修会

b 実施方法

- ・授業改善アンケートは「インターンシップI・II」を除く全科目について、各学期末に実施する。
- ・教員相互の授業見学は随時実施する。
- ・FD研修会は年2回実施する。

c 開催状況 (教員の参加状況含む)

本年度の詳細な計画はFD・SD委員会で検討中

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・学生による授業改善アンケートの結果を担当教員にフィードバックし、授業内容の改善に努める。
- ・教員相互の授業見学については、感想を担当教員にフィードバックし、授業内容の改善に努める。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期末 (各学期の授業最終回) に実施予定

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・教員に対しては、アンケート結果を集計後、担当授業科目に係るデータを提示する。
- ・学生に対しては、アンケート結果を踏まえた授業の振り返りをシラバスに掲載し、授業の改善点等を提示する。

(注) ・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため教育課程連携協議会を設置済み。
地方公共団体の職員1名について、設置認可申請時の計画から委員が変更となっているが、後任の委員も地方公共団体の職員であるもの。(※資料3「教育課程連携協議会構成員名簿」参照)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

年2回開催。令和4年度は、令和4年9月28日、令和5年3月24日に開催。本年度の開催日程は調整中。

c 委員会の審議事項等

産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
産業界及び地域社会との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

令和4年度第1回教育課程連携協議会の主な審議内容は以下のとおり。

- ・臨地実務実習の課題と方向性について

令和4年度第2回教育課程連携協議会の主な審議内容は以下のとおり。

- ・職業専門科目「イノベーションプロジェクトⅠ～Ⅵ」の授業内容・課題について
- ・世の中でニーズのある資格について

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

- ・令和4年度第1回教育課程連携協議会の審議内容については、令和4年11月16日開催の教授会にて学内に共有。
- ・令和4年度第2回教育課程連携協議会の審議内容については、令和5年6月21日開催予定の教授会にて学内に共有予定。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

現在、学年進行中であり、教育課程の変更は不適切であるため、完成年度後に教育課程連携協議会での審議内容を踏まえ、カリキュラム改正を行う予定。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見 自己点検評価委員会において、本学設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価を実施している。 また、前年度の自己点検評価結果について、外部評価を実施し、その妥当性を点検している。その結果示された課題事項については、学長から改善命令を学内に発出し、各部門において改善に取り組んでいる。</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期 令和5年5月末に公表</p> <p>b 公表方法 本学ウェブサイト上に公開（令和5年5月末）</p> <p>③ 認証評価を受ける計画</p> <ul style="list-style-type: none">・機関別認証評価については、令和8年度に評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、認証評価の基準を見据えた自己点検評価を進めている。・分野別認証評価については、令和6年度を受審に向け、特定の評価機関と協議を進め、その状況について学内に共有しつつ、検討を進めている。
--

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）</p> <p>a 公表予定の有無 [有]</p> <p>≪ aで「有」の場合 ≫</p> <p>b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内]</p> <p>c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載]</p> <p>≪ aで公表「無」の場合 ≫</p> <p>d 公表しない理由 []</p>

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

【設置計画履行状況報告書・補足説明資料(専門職大学等)】

(共通留意事項)

- 「認可(設置)時の計画」には認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」で記載した計画を記入ください。
 - 認可申請書に記載がなければ「記載なし」と記入ください。
 - 「履行状況」には報告時点で取り組んでいる事項(準備状況含む)を記入ください。
- その際、「認可(設置)時の計画」から変更している場合は、変更した理由を具体的に記入ください。

① 入学者選抜

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>・ 多様性に配慮した選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目)</p> <p>一般選抜(定員60名)</p> <p>①学力検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、国語総合(古文、漢文を除く) ・外国語(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ) ・数学(数学Ⅰ、数学A) <p>②書類審査(調査書)</p> <p>学校推薦型選抜(定員50名)</p> <p>公募制推薦</p> <p>①書類審査(調査書・推薦書・大学入学希望理由書)</p> <p>②面接・口頭試問</p> <p>指定校制推薦</p> <p>①書類審査(調査書・推薦書・大学入学希望理由書)</p> <p>②面接・口頭試問</p> <p>総合型選抜(定員50名)</p> <p>面接型</p> <p>①書類審査(調査書・大学入学希望理由書)</p> <p>②面接・口頭試問</p> <p>グループワーク型</p> <p>①書類審査(調査書・大学入学希望理由書)</p> <p>②グループワーク</p> <p>小論文型</p> <p>①書類審査(調査書・大学入学希望理由書)</p> <p>②小論文</p> <p>プレゼン型</p> <p>①書類審査(調査書・大学入学希望理由書)</p> <p>②プレゼンテーション</p> <p>留学生選抜(定員30名)</p> <p>留学生学校推薦</p> <p>①書類審査</p> <p>②面接・口頭試問</p> <p>留学生一般</p> <p>①書類審査</p> <p>②面接・口頭試問</p> <p>③小論文</p> <p>帰国生選抜(若干名)</p> <p>①書類審査</p> <p>②面接試験</p> <p>③小論文</p> <p>・ 社会人選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目)</p> <p>特別選抜(社会人)(定員10名)</p> <p>①書類審査</p> <p>②面接・口頭試問</p> <p>③小論文</p>	<p>※入学者選抜において実際に各項目に該当する選抜を実施していればの結果と受験者や合格者の内訳を差支えない範囲で記入ください。</p> <p>一般選抜</p> <p>志願者数 50名</p> <p>受験者数 43名</p> <p>合格者数 35名</p> <p>学校推薦型選抜</p> <p>志願者数 38名</p> <p>受験者数 38名</p> <p>合格者数 38名</p> <p>総合型選抜</p> <p>志願者数 159名</p> <p>受験者数 154名</p> <p>合格者数 150名</p> <p>令和3年度入学者選抜試験から総合型選抜の試験種別に「プレゼン型」を追加理由： 本学は「起業にチャレンジすること」を一つの目標に掲げ、プレゼンテーション能力の育成を重視しているため</p> <p>留学生選抜</p> <p>志願者数 3名</p> <p>受験者数 3名</p> <p>合格者数 3名</p> <p>帰国生選抜</p> <p>志願者数 2名</p> <p>受験者数 2名</p> <p>合格者数 2名</p> <p>特別選抜(社会人)</p> <p>志願者数 1名</p> <p>受験者数 1名</p> <p>合格者数 1名</p>

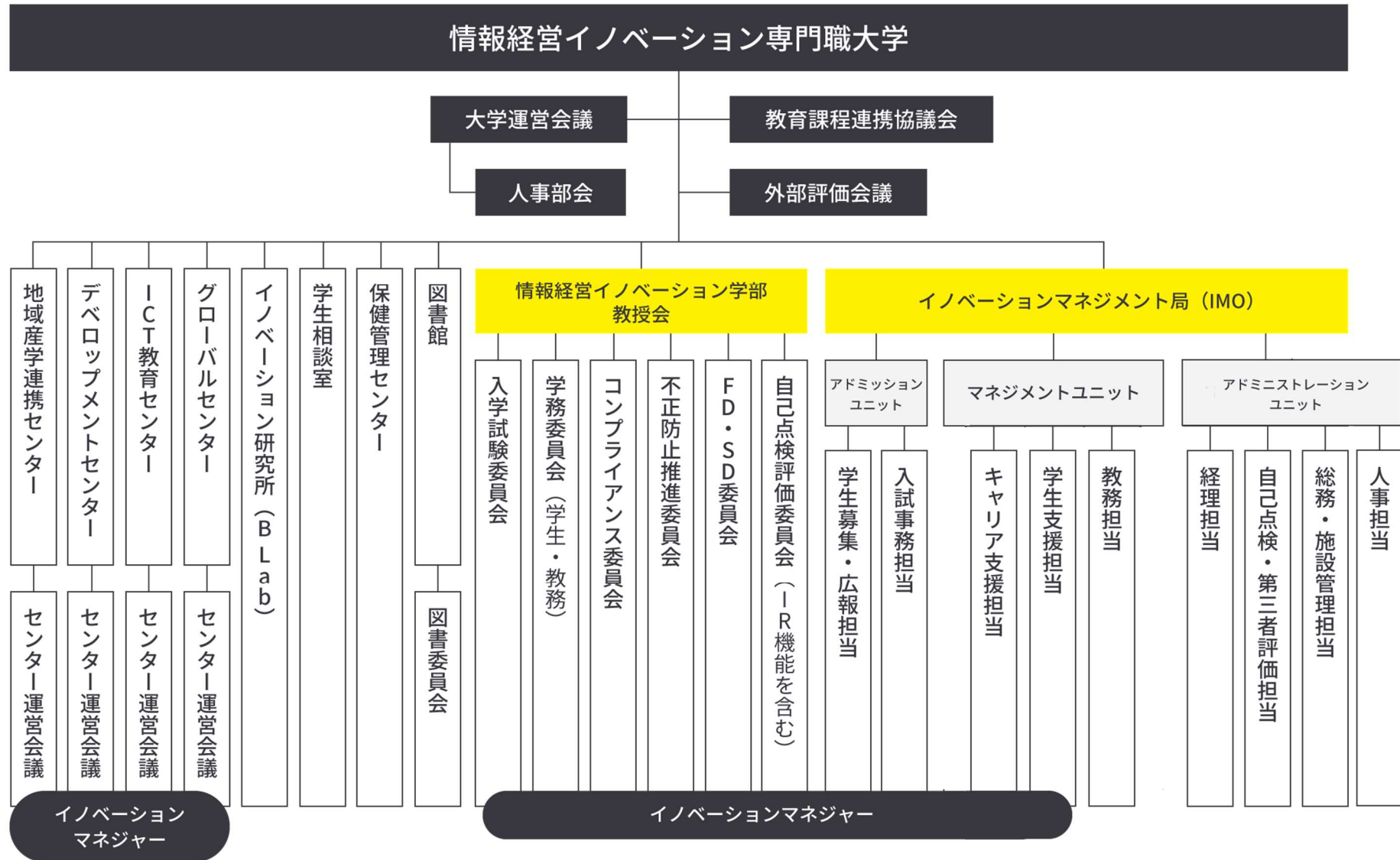
② 臨地実務実習

認可（設置）時の計画	履行状況
<p>・ 実習先の確保の状況 現在実習先企業数は合計27社あり、各インターンシップ先はインターンシップⅠ・Ⅱそれぞれ320時間、1名～15名(企業規模によって異なる)の実習生を受け入れる。そのため、実習生200名に対する教育課程に必要なインターンシップ先は確保している状況である。</p> <p>・ 実習水準の確保の方策 どの実習先においても設定された能力を身に付けることができるよう、目標や具体的なインターンシップ内容、評価基準等を別紙のとおり定めた。</p> <p>・ 実習先との連携体制 実習担当専任教員と各インターンシップ指導者とは、綿密に連携し、実習1年半前には協議を開始し、大学からは、理念体系やインターンシップの目的・目標の共有、事前・事後指導の共有、インターンシップ期間の確認、金銭が発生する場合のやり取りの方法、機密保持契約の内容、出勤方法や事故対応、インターンシップ内容の擦り合わせや評価基準の共有を個別に実習先に伺い行う。また、半年前には学生の実習先が決定する流れを取る為、各インターンシップ先で学生に求めることをヒアリングし、学生にはヒアリング内容を共有する。学生はインターンシップ用の履歴書・学内活動実績書を作成し、インターンシップ先決定後にインターンシップ先と共有する。</p> <p>各実習先には、インターンシップの目的である「実践活動の場での課題発見・解決」「専門的知識・スキルと実務との統合」の2つの観点で学生の育成を依頼する。特に、インターンシップ先からは課題発見(気づき)や問題解決等現場でしかできない実践活動の場を提供頂くという視点でプログラムを準備してもらう。</p> <p>さらに、年に1回のインターンシップ指導者研修会を開催し、学生の課題共有を中心に行い、インターンシップを含めた人材育成方法等について学び合う機会を設ける。また、本学専任教員による講座を行い、インターンシップ先の課題解決に役立てってもらう。</p> <p>上記研修会の他、教育の質保証を目指し、実習指導者から本学が策定した観点で実習専任担当教員の第三者評価をもらうことで実習指導の改善を行う。</p> <p>・ 連携実務演習等 記載なし</p>	<p>※実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>実習先を確実に確保するため、実習先企業の開拓を積極的に進め、令和4年度においては、合計116社において1社あたり1～5名の実習生の受入れを実現し、「インターンシップⅠ」及び「インターンシップⅡ」の履修対象となる3年生のうち、休学中の学生や先修条件科目の単位を修得できなかった学生等を除く、174名の学生全員について、実習先を確保した。</p> <p>令和5年度においては、合計90社(1社あたり1～7名の実習生を受入れ)の実習先を確保しており、「インターンシップⅠ」及び「インターンシップⅡ」の履修に必要な先修条件科目の単位を修得した153名を実習に送り出す予定。</p> <p>令和4年度に引き続き、適切な実習水準を確保するため、設置時の計画(資料4「実習水準の確保等について」参照)に基づき、インターンシップの内容等について、実習先企業と調整を行うとともに、学生に対して必要な事前指導を行っている。</p> <p>令和3年度から実習先企業とインターンシップの実施に関する具体的な協議を開始し、インターンシップの目的・目標の共有を図るとともに、インターンシップの期間や雇用関係の有無、交通費支給の有無、事故対応等について、個々に擦り合わせを行った。その上で、各実習先企業とインターンシップ実施に係る契約を締結している。</p> <p>また、学生と企業とのマッチングを行い、各学生の実習先企業を確定するとともに、学生の履歴書・志望理由書を実習先企業と共有した。</p> <p>令和4年4月には、インターンシップ指導者研修会を開催し、インターンシップの大まかな流れ、学生指導におけるポイント等について説明・共有を図った。その後、令和4年6月からのインターンシップ実施に向け、実習担当専任教員及びキャリア支援担当職員を中心に、インターンシップ実施期間中における日報の作成・確認方法、巡回指導の実施方法、成績評価の方法等について、実習先企業と詳細な調整を進め、緊密な連携体制の下、インターンシップを実施した。</p> <p>令和5年度においても上記と同様に、実習先企業との連携体制を構築し、インターンシップを実施する予定。</p>

③ その他

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>・ 同時に授業を行う学生数が40人を超える場合に講じる措置 すべての授業の受講人数は、40名以下とする。そのため、選択必修科目や選択科目で希望者が多数となった際には、クラス数を増加させる。その際、希望する学生の履修に支障がないような曜日・時限に科目を配置するとともに、担当教員に対しても過度な負担とならないよう配慮する。</p> <p>・ 入学前の実務経験を単位に換算した場合、その実施状況 (換算の対象とした実務経験の内容と、換算した単位数、適切な換算が行われていることを説明すること。また換算の根拠となる規定等も添付すること)</p>	<p>※実際に実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>令和2年度及び令和3年度においては、入学者数が入学定員を上回ったことにより、40人以下での授業実施が困難であった状況を踏まえ、専任教員の授業担当コマ数を見直すとともに、兼任教員の増員を図り、開講クラス数を増加させることとした。これにより、令和4年度前期については全開講科目、令和4年度後期については以下2科目以外の開講科目において40人以下で授業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「多文化理解」履修者:79名 ●「国際メディア論」 <ul style="list-style-type: none"> ・クラス①履修者:58名 ・クラス②履修者:55名 <p>いずれの科目も当初授業担当予定であった兼任教員の辞任により、開講クラス数を縮減せざるを得なくなったことが、40人を超える授業実施の要因となったが、両科目とも以下のとおり学生の効果的な学修を促進する授業方法を取り入れることで、教育成果があがっていることを確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「多文化理解」 多様な視点から物事を考え、多文化についての理解を促すため、グループディスカッションを積極的に取り入れた授業を実施。 学期末に実施した授業改善アンケートにおける学修達成度に係る設問では、約91%の履修者が肯定的な回答をしており、単位修得率も73%(後期開講科目平均76%)と平均的な水準となっている。 ●「国際メディア論」 講義科目となるが、学生の能動的な学修を促すため、クイズやグループワークを取り入れた授業を実施。 学期末に実施した授業改善アンケートにおける学修達成度に係る設問では約98%の履修者が肯定的な回答をしており、単位修得率も96%(後期開講科目平均76%)と平均を上回る水準となっている。 <p>なお、令和5年度前期については、令和4年度と同等の開講クラス数を維持することで、すべての開講科目において、40人以下で授業を実施している。</p> <p>該当なし</p>

情報経営イノベーション専門職大学 組織図 & 機能図



情報経営イノベーション専門職大学FD・SD委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、情報経営イノベーション専門職大学教授会各種委員会規程第2条第2項第2号の規定に基づき、FD・SD委員会（以下「委員会」という。）に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第2条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 学長が指名する専任教員 若干名
 - (2) 学長が指名するイノベーションマネジメント局員 若干名
- 2 委員会には委員長を置き、学長が指名する。

(任期)

第3条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、任期途中で欠員のため補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員会が選出する委員がその職務を代行する

(開催)

第4条 委員会は、必要の都度、開催する。

- 2 委員会は、委員長が召集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその業務を行う。
- 3 委員会には、委員長が必要と認めた者を出席させることができる。

(審議事項)

第5条 委員会は、次の各号について審議する。

- (1) 専門職大学設置基準第20条に基づくファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）活動の企画立案に関する事項
- (2) FD活動の実施計画立案に関する事項
- (3) FD活動の情報収集とその提供に関する事項
- (4) その他、FD活動に関する事項
- (5) 専門職大学設置基準第58条に基づくスタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）活動の企画立案に関する事項
- (6) SD活動の実施計画立案に関する事項
- (7) SD活動の情報収集とその提供に関する事項
- (8) その他、SD活動に関する事項

(定足数)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 議決を要する事項は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(専門部会)

第7条 委員会が必要と認める場合は、専門部会を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、イノベーションマネジメント局において行う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

教育課程連携協議会構成員名簿

情報経営イノベーション専門職大学

番号	構成員区分	関係する学部等 又は研究科等	氏名	年齢	現所属及び役職名	当該専門職大学等，専門職学科又は専門職大学院の 課程に係る職業に関する主な経歴
1	教職員	情報経営イノベーション学部	古賀稔邦	61	学校法人電子学園 理事 日本電子専門学校 校長 ※[令和2年4月～]情報経営イノベーション専門職大学 副学長	なし
2	教職員	情報経営イノベーション学部	鎌谷 修	56	日本電信電話株式会社 未来ねっと研究所 主任研究員 ※[令和2年4月～]情報経営イノベーション専門職大学 情報経営イノベーション学部 学部長	なし
3	教職員	情報経営イノベーション学部	宮島徹雄	53	学校法人電子学園 専門職大学設立準備室 室長 ※[令和2年4月～]情報経営イノベーション専門職大学 イノベーションマネジメント局長	なし
4	職業	情報経営イノベーション学部	上條久美	54	東京商工会議所 墨田支部 事務局長	平成元年 東京商工会議所 入所（経済資料センター担当） 平成22年 東京商工会議所 江東支部事務局長

						平成27年 東京商工会議所 共済・証明事業部 副部長 平成29年 東京商工会議所 墨田支部事務局長 (現在に至る)
5	職業	情報経営イノベーション学部	木田徳彦	5 6	株式会社インフォテック・サーブ 代表取締役 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 理事	昭和61年 綜合法令株式会社入社 昭和63年 株式会社エイ・エス・ティ入社 平成10年 株式会社インフォテック・サーブ設立 取締役就任 平成23年 株式会社インフォテック・サーブ 代表取締役就任 (現在に至る) 平成26年 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 理事就任 (現在に至る) 平成30年 一般社団法人iCD協会 常任理事就任 (現在に至る)
6	地域	情報経営イノベーション学部	郡司剛英 小坂橋一之	5 5 5 9	墨田区 産業観光部 部長 墨田区 企画経営室 政策担当 課長	
7	協力	情報経営イノベーション学部	浜野慶一	5 7	株式会社 浜野製作所 代表取締役	昭和60年 板橋区板金加工メーカー (株)スガヌマ入社 平成5年 (株)浜野製作所 代表取締役 就任 (現在に至る)
8	協力	情報経営イノベーション学部	伊藤 好宏	4 4	日本サード・パーティ株式会社 マネージドサービスソリューション事業部 ミッションクリティカルソリューションセンタ第一部プロジェクトマネージャ	平成11年 日本サード・パーティ株式会社 入社 平成24年 日本サード・パーティ株式会社 Section Manager(課長) 平成25年 日本サード・パーティ株式会社 Technical Manager(技術管理職) 平成26年 日本サード・パーティ株式会社 技術執行役員 平成27年～平成30年 日本サード・パーティ株式会社 Technical Manager(技術管理職) 平成30年 日本サード・パーティ株式会社 プロジェクトマネージャ(課長) (現在に至る)

実習水準の確保等について

情報経営イノベーション専門職大学

どの実習先においても設定された能力を身に付けることができるよう、目標や具体的なインターンシップ内容、評価基準等を以下のように定めた。

(インターンシップ I)

・主な到達目標

- * 与えられた業務がどのような意義を持つのかを理解し、効率的・効果的な方法で業務を完了することを目標として作業を進めることができる。
- * 課題解決や目標の達成に向けた計画を立て、実際の状況に応じた計画修正の必要に自ら気づき、指導者の承認を受けて修正・変更しながら最後まで実行できる。
- * システム開発の作業の一工程として、示された設計書の通りに実装することができる。

・実習内容（体験・作業・課題等）

初日	<p>インターンシップ I オリエンテーション</p> <p>① 企業の沿革、組織説明、就業規則、実習・研修の体制などの説明と、研修内容についてのオリエンテーションを実施する。また、自分自身の将来の目標について実習先指導者とすり合わせる。</p>
1 週目	<p>① 実習生自らが業務の流れを見聞きし、理解したうえで、実習先企業の取り扱う製品やサービス、ビジネスの企画、開発、生産などの付随した業務内容を補助するための計画を行い実習期間中の各自の目標設定を行い、実習指導者のフィードバックを得る。</p> <p>② システム開発者の仕事の様子(プロジェクト型業務)を見学する。</p> <p>③ システム開発を行う上での責任範囲、役割を理解し、手順に沿ってシステム開発を行うことの重要性を聴く。</p>
～3 週目	<p>① システム開発チームメンバーとして開発作業の補助業務を行う。</p> <p>② 実習期間 2 週間を振り返り、補助業務内容の反省および、必要とされる知識、技術の不足部分、問題点と、実習日誌の実習指導者からのフィードバックを基に自己分析を行う。また、実習先から与えられたテーマを課題として、企画立案、計画準備など、課題毎に取り組む。</p>
～5 週目	<p>① システム開発の作業の一工程として、示された設計書の通りに実装する課題に取り組む。</p> <p>② 実習先から与えられた各自の課題に対しての進捗状況を適宜、実習指導者のチェックを受け、企画、計画など内容に修正がないか確認を行いながら</p>

	業務を遂行する。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスを受け、次のステップに移行する。
～7 週目	① 引き続き、与えられた課題を基に業務を遂行する。適宜、実習指導者のチェックを受け、企画、計画など内容に修正がないか確認を行う。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスを受け、最終プレゼンテーションに備えてブラッシュアップを行う。
～8 週目	① 完成した成果物についてのプレゼンテーションならびに実習目標に伴う報告を行う。 ② 実習先企業に協力を得て、できる限り多くのスタッフから評価を得ることを目指す。その評価を基に、得られた改善点について実習日誌にまとめ、成果物とともに実習指導者に提出し報告を行う。

(インターンシップⅡ)

・主な到達目標

- * 自分のやるべき業務を的確に判断し、効率的な方法を考え、率先して創意工夫をしながら取り組むことができる。
- * 異なる考え方の人たちと意見を交わして調整し、互いに納得できる結論を導き、状況に応じて自分の役割を適切に変えながら協力して業務を遂行することができる。
- * 企業や事業を取り巻く状況について調査統計、アンケートやインタビューといった情報を適切に収集・分析し、それらを分かりやすく整理し、ビジネス上の的確な示唆を提示できる。
- * 情報通信技術も活用し、事業の課題を解決する方策と実行計画、それによって生じるデメリットとその対処策などもあわせてプレゼンし、指導者の納得と助言を得ることができる。

・実習内容（体験・作業・課題等）

初日	インターンシップⅡ オリエンテーション ① 必要に応じ、企業の沿革、組織説明、就業規則、実習・研修の体制などの説明と、研修内容についてのオリエンテーションを実施する。また、自分自身の将来の目標について実習先指導者とすり合わせる。 ② インターンシップⅠで発見した自分自身の課題等について実習先指導者とすり合わせる。
1 週目	① 実習生自らが業務の流れを見聞きし、理解したうえで、実習先企業の取り扱う製品やサービス、ビジネスの企画、開発、生産などの付随した業務内容を補助するための計画を行い実習期間中の各自の目標設定を行い、実習指導者のフィードバックを得る。 ② 実習先で行われる実際の会議やミーティングに参加させてもらう。 ③ マーケティング業務経験者や企画職経験者の仕事の様子(プロジェクト型業務)を見学する。
～3 週目	① 営業、マーケティング業務、企画業務の補助業務を行う。

	② 実習期間2週間を振り返り、補助業務内容の反省および、必要とされる知識、技術の不足部分、問題点と、実習日誌の実習指導者からのフィードバックを基に自己分析を行う。また、実習先から与えられたテーマを課題として、企画立案、計画準備など、課題毎に取り組む。
～5 週目	① 企業や事業を取り巻く状況について調査統計、アンケートやインタビューといった情報を適切に収集・分析し、それらを分かりやすく整理する課題に取り組む。 ② 実習先から与えられた各自の課題に対しての進捗状況を適宜、実習指導者のチェックを受け、企画、計画など内容に修正がないか確認を行いながら業務を遂行する。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスを受け、次のステップに移行する。
～7 週目	① 前回の課題、インターンシップ I を踏まえ、情報通信技術も活用し、事業の課題を解決する方策と実行計画、それによって生じるデメリットとその対処策などもあわせてプレゼンテーションする課題に取り組む。 ② 課題に対し、実習指導者のチェックを受け、企画、計画など内容に修正がないか確認を行う。週末までに、修正内容の改善計画を確認し、実習指導者のアドバイスを受け、最終プレゼンテーションに備えてブラッシュアップを行う。
～8 週目	① 完成した成果物についてのプレゼンテーションならびに実習目標に伴う報告を行う。 ② 実習先企業に協力を得て、できる限り多くのスタッフから評価を得ることを目指す。その評価を基に、得られた改善点について実習日誌にまとめ、成果物とともに実習指導者に提出し報告を行う。

(評価方法・評価基準)

- ・ 評価方法について

評価は、インターンシップ評価基準に基づいて、以下の方法で総合的に判断して評価する。

(ア) 実習事前指導における課題内容の評価(目標設定・社会人スキル・実習先事前調査等)

(イ) 実習中における実習担当専任教員からの評価(実習日誌の内容)

(ウ) 実習中における実習先指導者からの評価(実習中の評価(下記：ループリック評価基準参照)・取り組み姿勢、インターンシップ中に与えられた業務の成果)

(エ) 実習事後指導における課題内容の評価(実習日誌の内容、インターンシップ報告会でのプレゼンテーション、報告書等)

- ・ 評価基準

ディプロマ・ポリシー、インターンシップの目的、目標を鑑み、以下評価基準表をもとに評価を行う。

インターンシップ I の評価基準(表 1)及びインターンシップ II の評価基準(表 2)は以下のとおりである。

表1 ◆インターンシップⅠの評価基準（ルーブリック評価）

評価項目	4 ファイナルステップ	3 サードステップ	2 セカンドステップ	1 ファーストステップ
目標設定	与えられた業務がどのような意義を持つのかを理解し、効率的・効果的な方法で業務を完了することを目標として作業を進めることができる。	与えられた業務の目的を理解した上で、効率的・効果的な方法で完了することを目標として作業を進めることができる。	与えられた業務について、効率的な方法や手順で完了することを目標として作業を進めることができる。	与えられた業務を完了することを目標として作業を進めることができる。
計画立案・実践	課題解決や目標の達成に向けた計画を立て、実際の状況に応じた計画修正の必要に自ら気づき、指導者の承認を受けて修正・変更しながら最後まで実行できた。	課題解決や目標の達成に向けた計画を立て、実際の状況においても指導者のアドバイスに従いながら計画の修正・変更を行い、最後まで実行できた。	課題解決や目標の達成に向けた計画を立て、指導者の指示に従いながら最後まで実行できた。	課題解決や目標の達成に向けた計画を立て、実行しようとしていたが、最後まででは完遂できなかった。
主体性	自分のやるべき業務を的確に判断し、効率的な方法を考え、率先して創意工夫をしながら取り組むことができた。	自分のやるべき業務は何かを判断し、前向きに率先して取り組むことができた。	自分のやるべき業務は何かを考えながら、取り組むことができた。	指示された業務を忠実に実行できた。
コミュニケーション・協働	異なる考え方の人たちと意見を交わして調整し、互いに納得できる結論を導き、状況に応じて自分の役割を適切に変えながら協力して業務を遂行することができた。	異なる考え方の人たちと意見を交わして調整し、互いに納得できる結論を導き、自ら協力しながら業務を遂行することができた。	異なる考え方の人たちの意見を聞いて理解したうえで、自分の意見を伝え、自ら協力しながら業務を遂行することができた。	異なる考え方の人たちに対して、自分の意見を伝え、相手から求められた業務を遂行することができた。
システム開発	システム開発の作業の一工程として、示された設計書の通りに実装することができた。	システム開発に関しての基本的な知識を保有し、担当する領域の作業を、上位の指導の下に行うことができた。	システム開発に関する基本的な知識を保有し、システム開発の作業工程として、示された設計書の内容を理解することができた。	システム開発に関する基本的な知識を理解している。

表2 ◆インターンシップⅡの評価基準（ルーブリック評価）

評価項目	4 ファイナルステップ	3 サードステップ	2 セカンドステップ	1 ファーストステップ
目標設定	与えられた業務がどのような意義を持つのかを理解し、効率的・効果的な方法で業務を完了することを目標として作業を進めることができる。	与えられた業務の目的を理解した上で、効率的・効果的な方法で完了することを目標として作業を進めることができる。	与えられた業務について、効率的な方法や手順で完了することを目標として作業を進めることができる。	与えられた業務を完了することを目標として作業を進めることができる。
計画立案・実践	課題解決や目標の達成に向けた計画を立て、実際の状況に応じた計画修正の必要に自ら気づき、指導者の承認を受けて修正・変更しながら最後まで実行できた。	課題解決や目標の達成に向けた計画を立て、実際の状況においても指導者のアドバイスに従いながら計画の修正・変更を行い、最後まで実行できた。	課題解決や目標の達成に向けた計画を立て、指導者の指示に従いながら最後まで実行できた。	課題解決や目標の達成に向けた計画を立て、実行しようとしていたが、最後まででは完遂できなかった。
主体性	自分のやるべき業務を的確に判断し、効率的な方法を考え、率先して創意工夫をしながら取り組むことができた。	自分のやるべき業務は何かを判断し、前向きに率先して取り組むことができた。	自分のやるべき業務は何かを考えながら、取り組むことができた。	指示された業務を忠実に実行できた。
コミュニケーション・協働	異なる考え方の人たちと意見を交わして調整し、互いに納得できる結論を導き、状況に応じて自分の役割を適切に変えながら協力して業務を遂行することができた。	異なる考え方の人たちと意見を交わして調整し、互いに納得できる結論を導き、自ら協力しながら業務を遂行することができた。	異なる考え方の人たちの意見を聞いて理解したうえで、自分の意見を伝え、自ら協力しながら業務を遂行することができた。	異なる考え方の人たちに対して、自分の意見を伝え、相手から求められた業務を遂行することができた。
情報の収集と分析	企業や事業を取り巻く状況について、調査統計、アンケートやインタビューといった情報を適切に収集・分析し、それらを分かりやすく整理し、ビジネス上の的確な示唆を提示できる。	企業や事業を取り巻く状況について、調査統計、アンケートやインタビューといった情報を適切に収集・分析し、それらを分かりやすく整理することができていた。	企業や事業を取り巻く状況について一般的な調査統計のデータだけでなく、アンケートやインタビューといった一次情報も適切に収集・分析することができていた。	企業や事業を取り巻く状況についての一般的な調査統計データを、適切に収集・分析することができていた。
解決提案とプレゼン	情報通信技術も活用し、事業の課題を解決する方策と実行計画、それによって生じるデメリットとその対処策などもあわせてプレゼンし、指導者の納得と助言を得ることができた。	情報通信技術も活用しながら事業の課題を解決する方策とその実行計画をプレゼンし、指導者の納得と助言を得ることができた。	情報通信技術も活用しながら事業の課題を解決する方策をプレゼンし、指導者の納得と助言を得ることができた。	情報通信技術を活用しながら事業の課題を解決する方策をプレゼンしたが、指導者の十分な納得を得られなかった。

評価項目 4 点×項目数を満点とし、90%以上／80%以上／70%以上／60%以上のスコアで成績評価点(高評価から、S/A/B/C の順)を算出する。また、各授業それぞれの評価に週に 1 回のインターンシップ指導者からの学生評価コメントと最終評価コメントを参照してインターンシップ指導者からの最終評価とする。

(実習事前事後指導計画)

インターンシップⅠについては、事前指導を 4 月～5 月(20 時間程度)に行い、インターンシップを 6 月から 7 月まで行う。事後指導は 8 月(20 時間程度)に行う。

インターンシップⅡについては、事前指導を 9 月(20 時間程度)に行い、インターンシップを 10 月から 11 月まで行う。事後指導については 12 月(20 時間程度)に行う。

事前指導では、目的や到達目標、インターンシップ中の留意事項などを十分に理解させ、事後指導では、報告会の実施やインターンシップ報告書の作成などを通してインターンシップ内容を整理させる。

(実習事前指導内容)

(ア) 動機付け

- ・ 大学としてのインターンシップの実施目的と意味を理解する
- ・ インターンシップ参加の自分にとっての意味を確認する
- ・ インターンシップに参加することにより、「何を得たいのか」「どんな成長をしたいのか」を理解する
- ・ 職業観に関するプログラムを実施する

(イ) 目標設定

- ・ 最終的な成果目標の確認
- ・ 直近の成果目標の設定と行動計画の策定

(ウ) 実践スキル ※インターンシップⅡでは、必要箇所のみ実施

- ・ 社会人マナーその他ノウハウ
- ・ 論理思考
- ・ プレゼンテーション技法
- ・ 専門的に必要な知識の復習

(エ) その他の準備

- ・ 実習日誌の説明、作成
- ・ 受け入れ企業の事前調査の実施
- ・ 企業の仕組みを理解し、自らの専門分野や興味関心とどのような繋がりがあるのか理解する
- ・ 企業から与えられる事前課題への取り組み
- ・

(実習事後指導内容)

(ア) 成果確認

- ・ 当初設定した目標や成果目標に到達したかを確認する

(イ) 言語化と意味づけ

- ・ 実習日誌を用いて現場での体験を振り返り、自らの意識と行動の変化を確認する。
 - ▶ 業務・社会体験への直接的な関わりの変化
 - ▶ 体験を通じたコミュニケーションの変化
 - ▶ 体験を通じた価値観の形成
- ・ インターンシップ期間中の様々な体験が自分の人生、キャリアパス、企業や地域や社会にとってどのような意味を持つかを振り返る
- ・ 学生の振り返りと、学生から見た受け入れ企業、社員へのフィードバックの機会(会社の新たな魅力や課題、組織への指摘、社内の変化、社員の行動の可視化等)

(ウ) 評価

- ・ インターンシップ前後の変化の自己評価・他者評価による再認識

(エ) 終了後の行動計画の作成

- ・ 大学での学びや、それ以降につながる目標設定と行動計画の作成

(オ) インターンシップ報告会の実施

- ・ インターンシップの学びを振り返り発表。報告書の作成も行う